

高齡者等実態調査
須坂市独自調査結果報告書

2023年2月

須坂市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	3
2. 調査の実施状況.....	3
3. 報告書の見方.....	4
第2章 居宅要介護・要支援認定者調査	5
1. 回答者のプロフィール.....	7
2. 「介護者向け」教室について.....	12
3. 自動車等の運転ができなくなった場合.....	16
4. 食生活について.....	18
5. 孤立感や不安について.....	20
6. 成年後見制度について.....	22
7. 情報入手やインターネットの利用について.....	23
8. エンディングノートについて.....	29
9. 虐待について.....	29
第3章 元気高齢者調査結果	31
1. 回答者のプロフィール.....	33
2. 要介護認定について.....	35
3. 自動車等の運転ができなくなった場合.....	36
4. 食生活について.....	37
5. 孤立感や不安について.....	39
6. 成年後見制度について.....	41
7. 情報入手やインターネットの利用について.....	42
8. エンディングノートについて.....	47
9. 虐待について.....	47
第4章 共通設問による比較	49
1. 自動車等の運転ができなくなった場合.....	51
2. 食生活について.....	52
5. 孤立感や不安について.....	54
6. 成年後見制度について.....	56
7. 情報入手やインターネットの利用について.....	57
8. エンディングノートについて.....	62
9. 調査結果の要約.....	63

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、高齢者の方々の日々の生活状況や普段の意識、健康状態等の把握をするとともに、要支援・要介護認定を受けた方を介護している家族の生活状況や介護する際の状況等について把握し、次期介護保険事業計画及び老人福祉計画策定に向けた基礎資料とすることを目的としています。

なお、「居宅要介護・要支援認定者調査」及び「元気高齢者調査」について、長野県において本年度に「居宅要介護・要支援認定者等実態調査」及び「元気高齢者等実態調査」を県内自治体経由で実施しているため、長野県の調査票とは別に、市独自の調査票の設計を行い実施したものです。

2. 調査の実施状況

2-1. 調査期間

2022年12月5日～2022年12月20日

2-2. 調査対象及びサンプル数

(1)居宅要介護・要支援認定者調査

要介護認定者 1,600件

(2)元気高齢者調査

一般高齢者 500件

2-3. 調査方法

郵送による配布・回収

2-4. 回収状況

対象	配布数	有効回収数	回収率
居宅要介護・要支援認定者	1,600票	984票	61.5%
元気高齢者	500票	362票	72.4%

3. 報告書の見方

- ① 長野県が実施している「居宅要介護・要支援認定者調査」が設問 63 まで、「元気高齢者調査」が問 71 まで設定されており、本報告書は、須坂市独自の設問部分、「居宅要介護・要支援認定者調査」は問 64 以降、「元気高齢者調査」は問 72 以降を集計したものとなります。
- ② 図表の中のnは、回答者の総数を意味しています。設問によっては、回答者が制限される(別の設問である選択肢を選んだ回答者のみ回答する場合など)ため、nは一定ではありません。
- ③ 比率は、nを 100%とした百分比で算出し、小数点以下第2位を四捨五入しています。そのため、表示されている百分比の合計が 100%にならない場合があります。
- ④ 複数回答が可能な設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがあります。
- ⑤ クロス集計表は、“全体”との差が目立つ部分を抜粋して記載しています。また、“全体”との差により、数値に印をつけています。

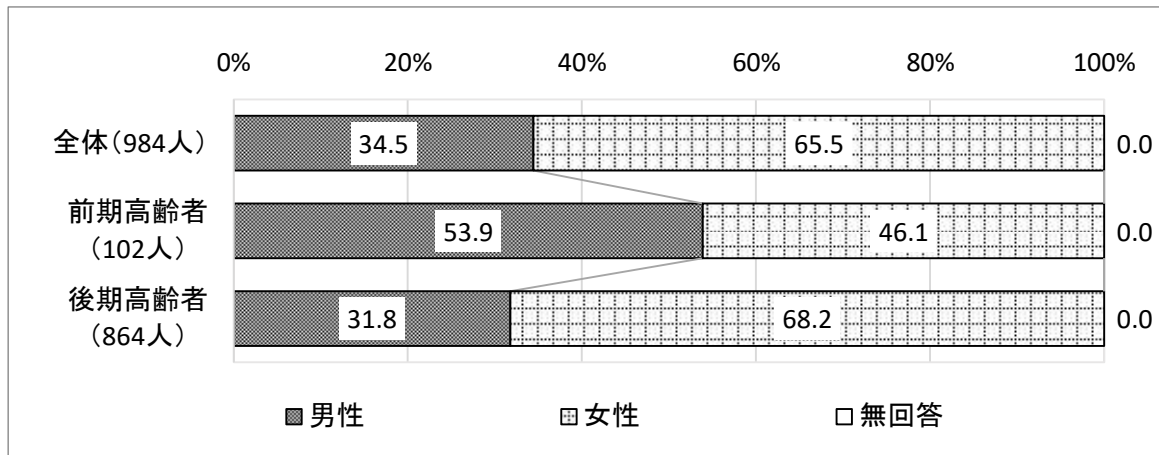
全体との差が	+10%以上:○	+20%以上:◎
	-10%以上:●	-20%以上:◆

第2章 居宅要介護・要支援認定者調査

1. 回答者のプロフィール

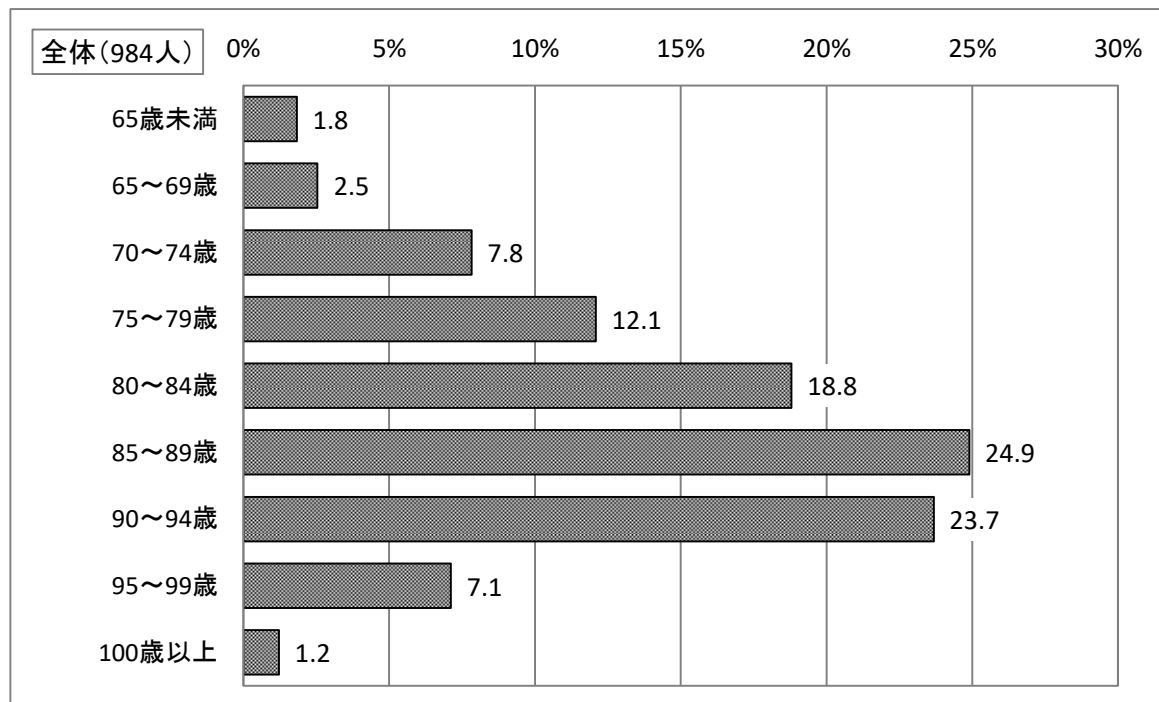
(1) 性別

回答者の性別は、女性が 65.5%、男性が 34.5%となっています。前期・後期高齢者で見ると前期高齢者では男性が 53.9%と半数を超えています。



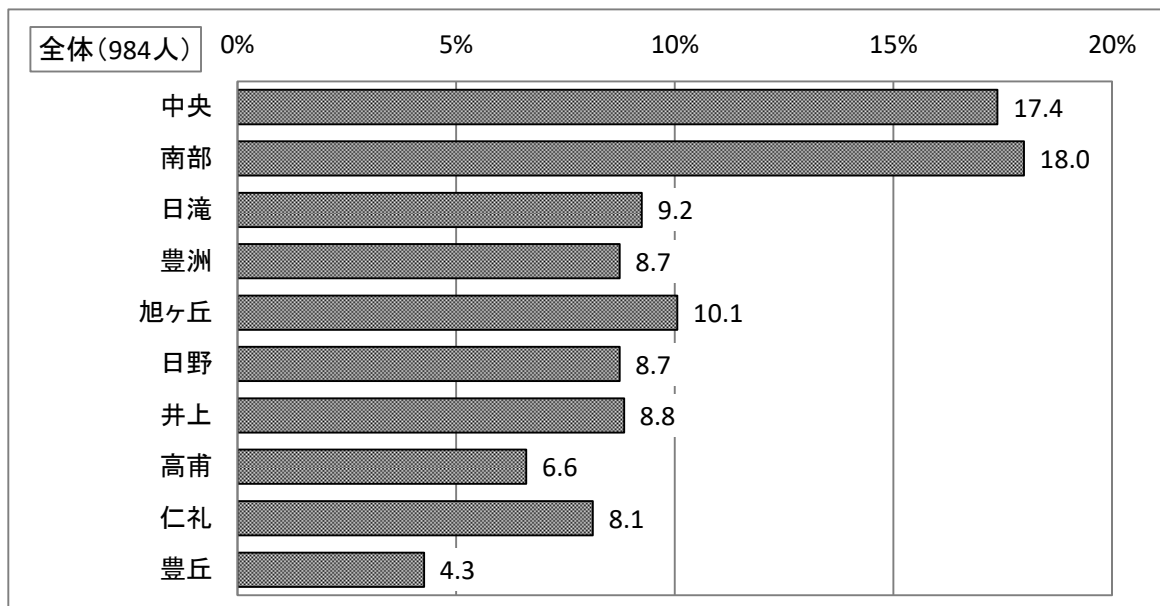
(2) 年齢

年齢は、「85～89 歳」が 24.9%で最も多く、次いで「90～94 歳」が 23.7%が続いています。



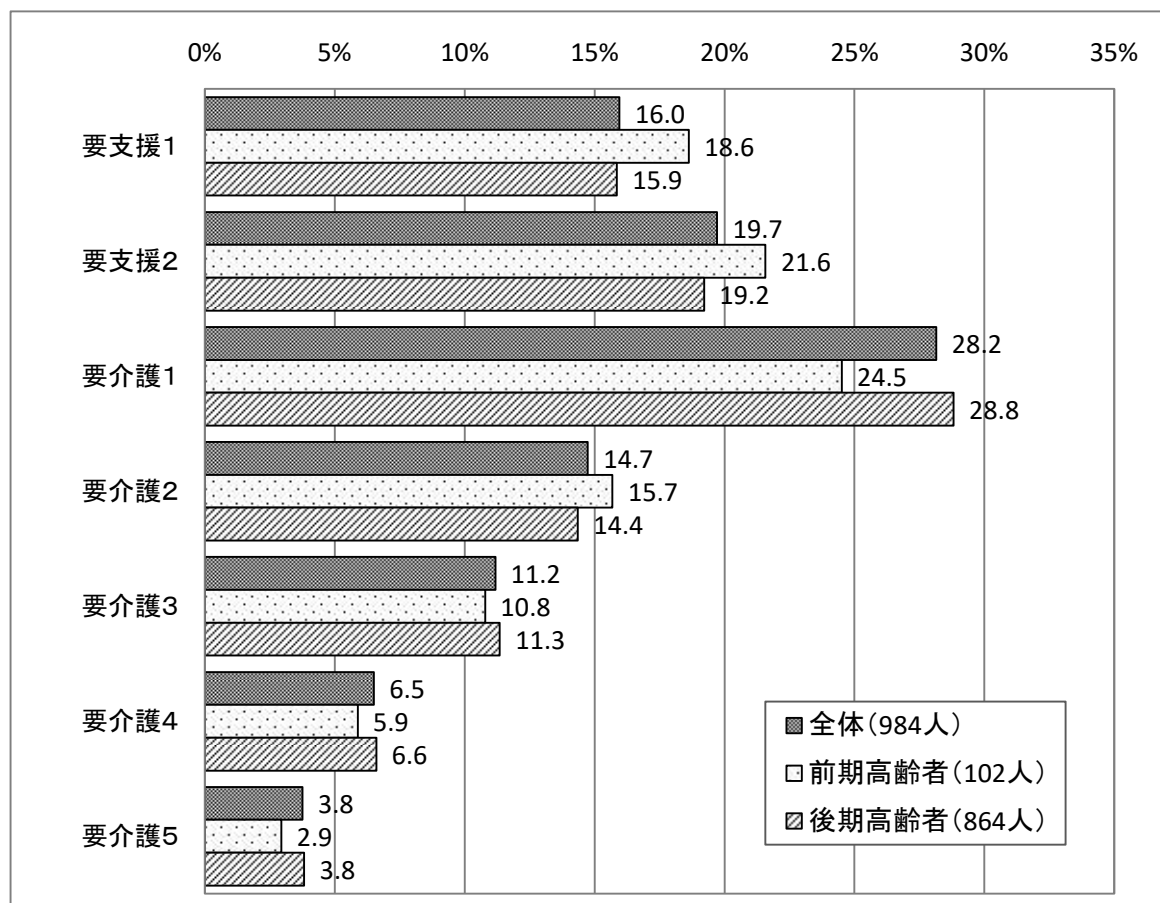
(3) 日常生活圏域

日常生活圏域は、中央と南部が多くなっています。



(4) 要介護状態区分

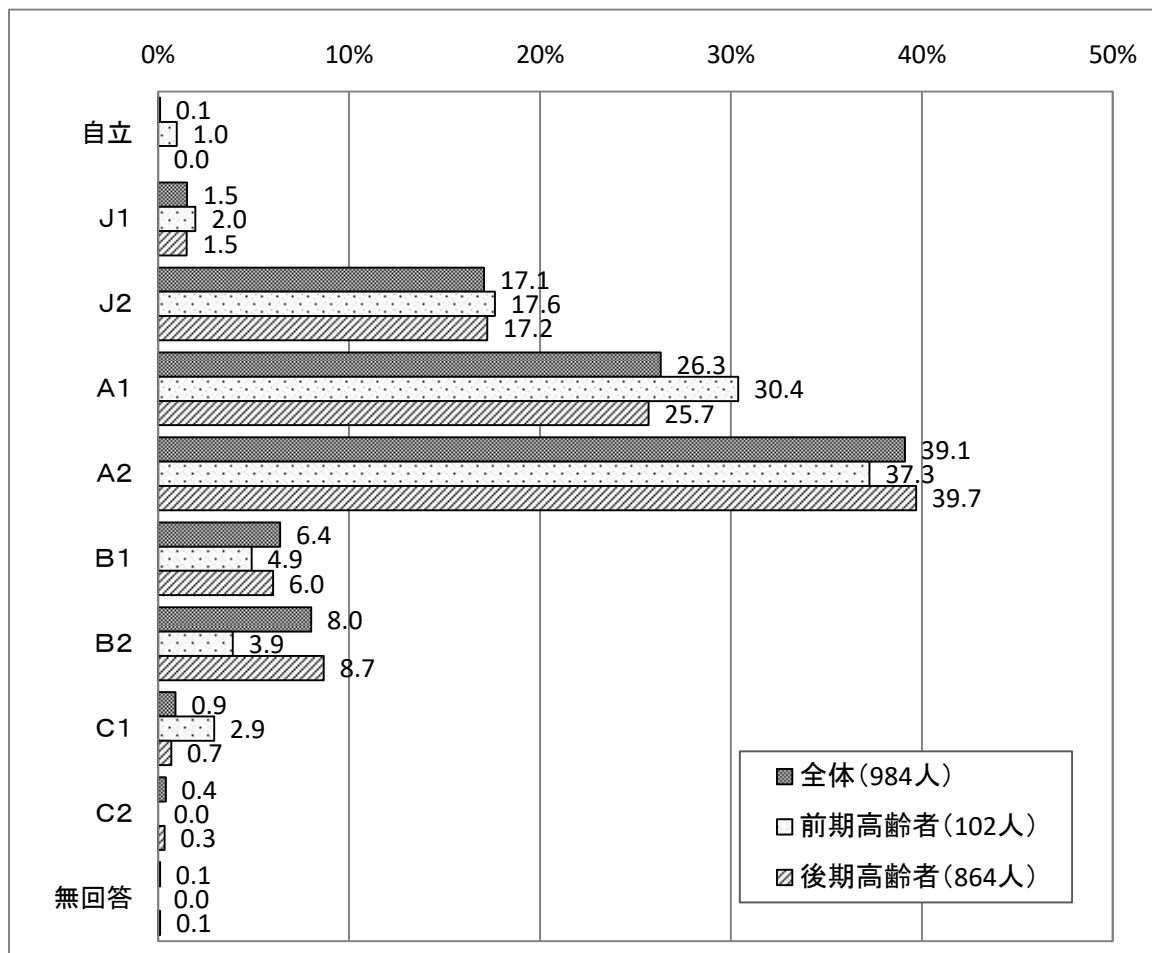
「要支援1」と「要支援2」では、後期高齢者に比べて、前期高齢者の割合がやや多くなっています。



(5) 障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度を全体で見ると、自立とランク J で 18.7%、ランク A が 65.4%となっています。

前期・後期高齢者別にみると、前期高齢者では A1 の割合がやや多くなっています。また、後期高齢者では、B1 と B2 の割合がやや多くなっています。

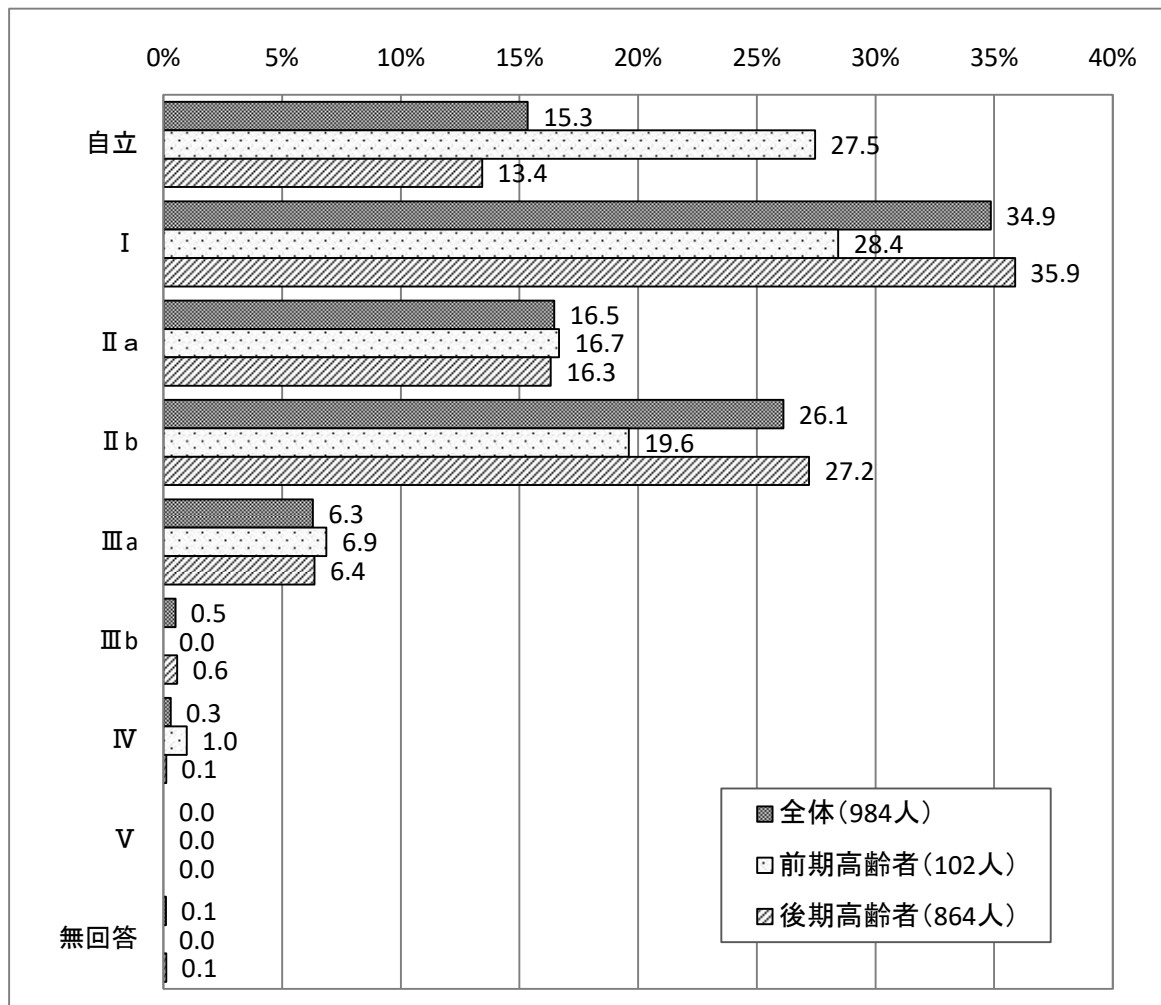


(6) 認知症高齢者の日常生活自立度

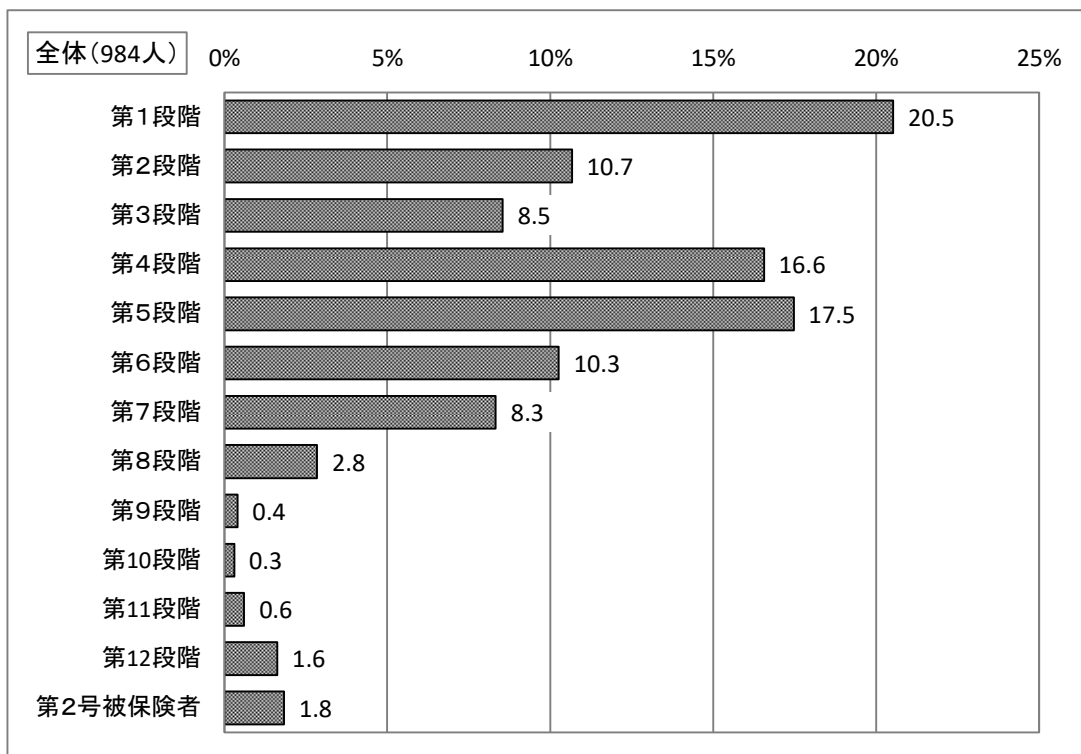
認知症高齢者の日常生活自立度を全体で見ると、ランクⅠが34.9%で最も多くなっています。次いでランクⅡbが26.1%となっています。

前期・後期高齢者別で見ると、前期高齢者ではランクⅠが28.4%で最も多く、次いで自立が27.5%と続いています。

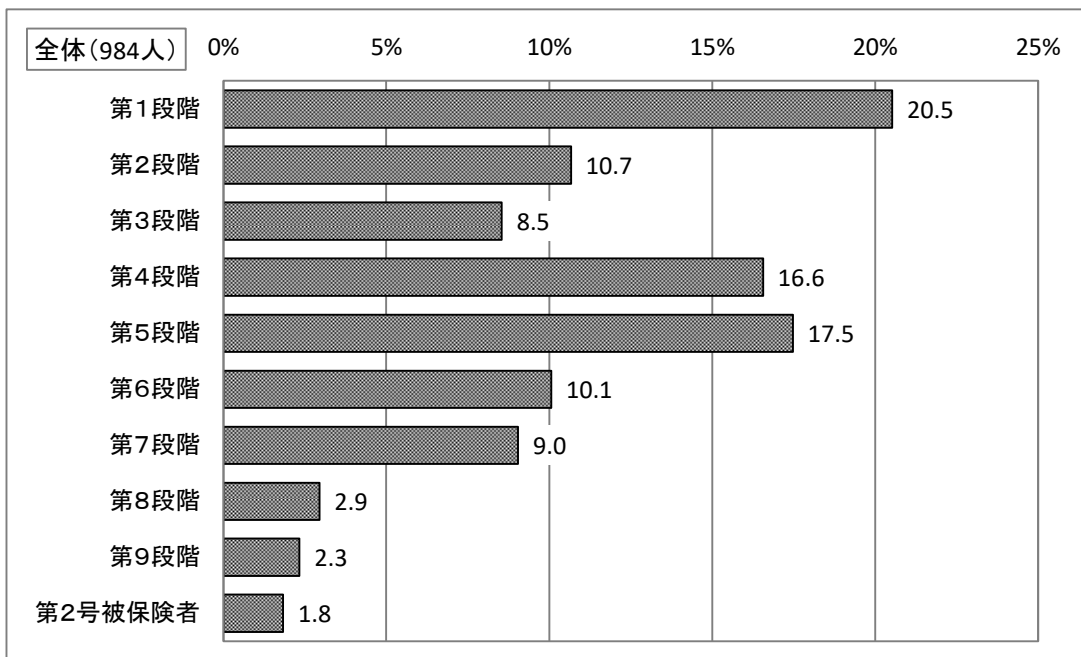
後期高齢者では、ランクⅠが35.9%で最も多く、次いでランクⅡbが27.2%となっています。



(7) 所得段階



(8) 標準所得段階



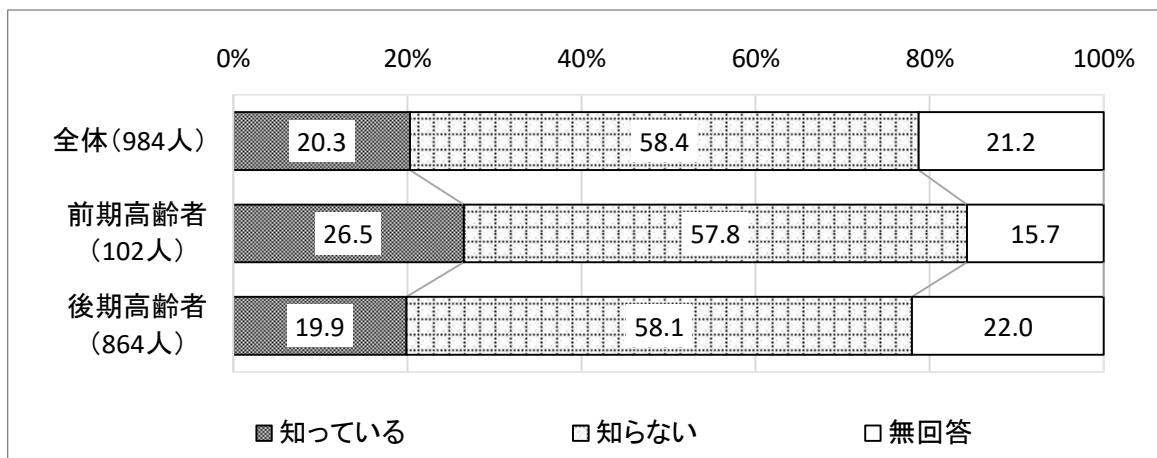
2. 「介護者向け」教室について

(1) 「介護者向け」教室の認知度

問 64 主な介護者の方は、須坂市で開催している「介護者向け」の教室を知っていますか。
(○は1つ)

主な介護者の方の「介護者向け」教室の認知度をみると、「知っている」が20.3%と約2割になっています。

前期・後期高齢者別でみると、前期高齢者では「知っている」が26.5%とやや多くなっています。

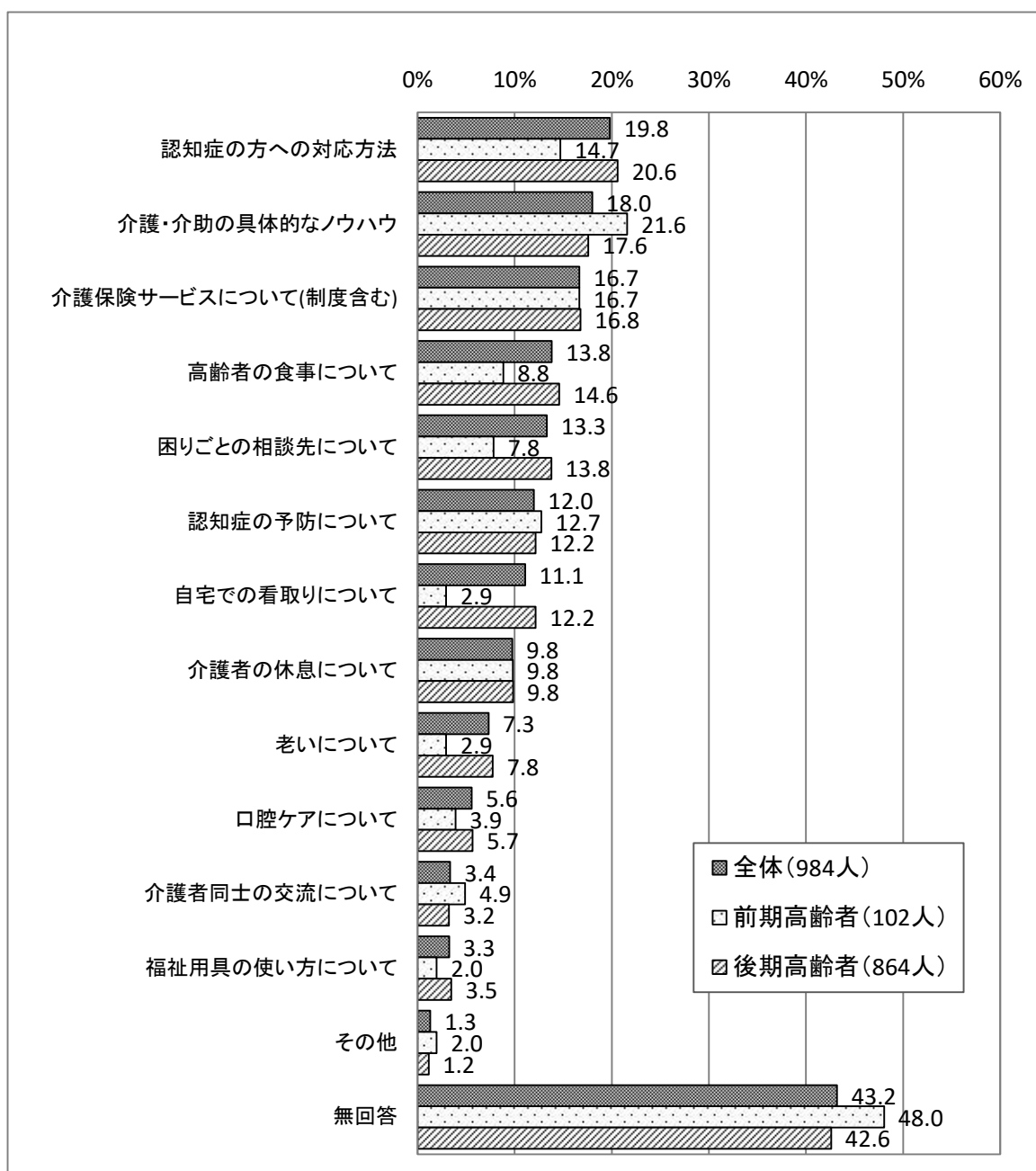


(2) 取り上げて欲しい内容

問 65 「介護者向け」教室で取り上げて欲しい内容がありましたら、下記から選んでください。
(○はいくつでも)

「介護者向け」教室で取り上げて欲しい内容をみると、「認知症の方への対応方法」が19.8%で最も多く、次いで「介護・介助の具体的なノウハウ」が18.0%となっています。

前期・後期高齢者別にみると、前期高齢者では「介護・介助の具体的なノウハウ」が21.6%で最も多く、次いで「介護保険サービスについて(制度含む)」が16.7%が続いています。

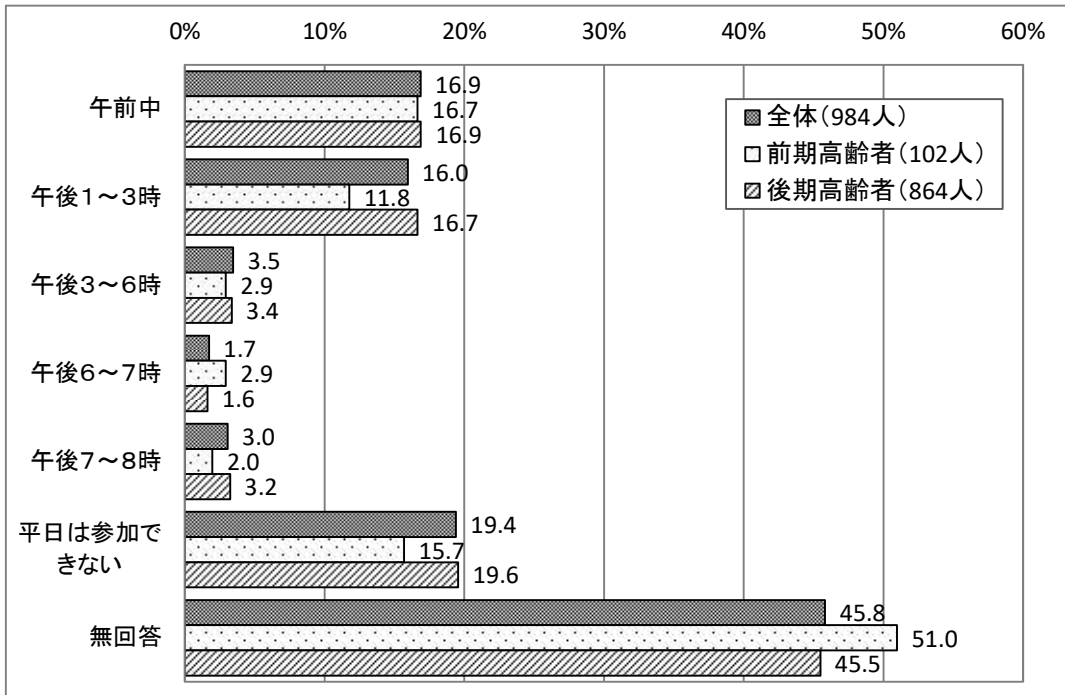


(3) 参加可能な時間帯

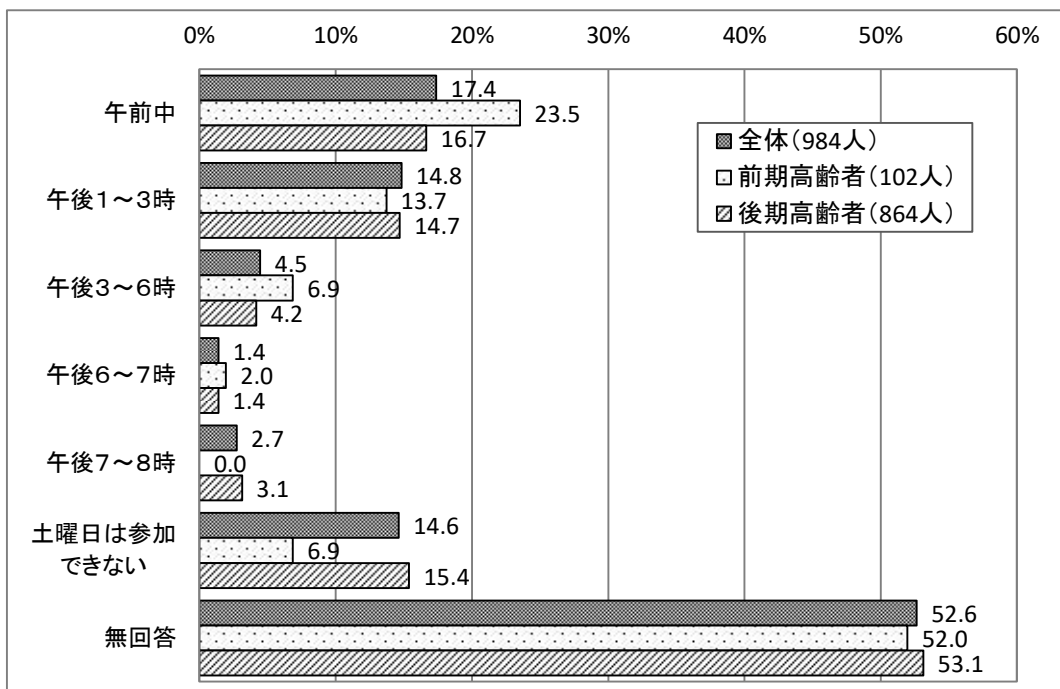
問 66 「介護者向け」教室について、参加可能な時間帯をお知らせください。(〇はいくつでも)

「介護者向け」教室の参加可能な時間帯としては、平日、土曜日、日曜日ともに午前中との回答が多くなっています。土曜日の午前中については、前期高齢者が 23.5%と2割以上となっています。

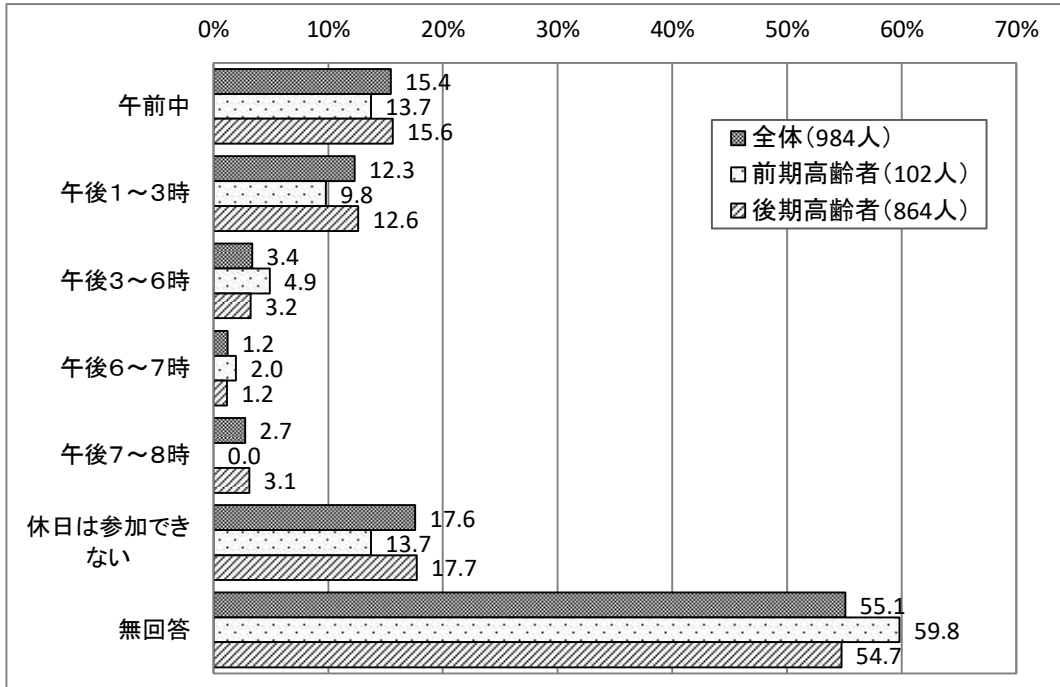
①平日



②土曜日



③日曜日

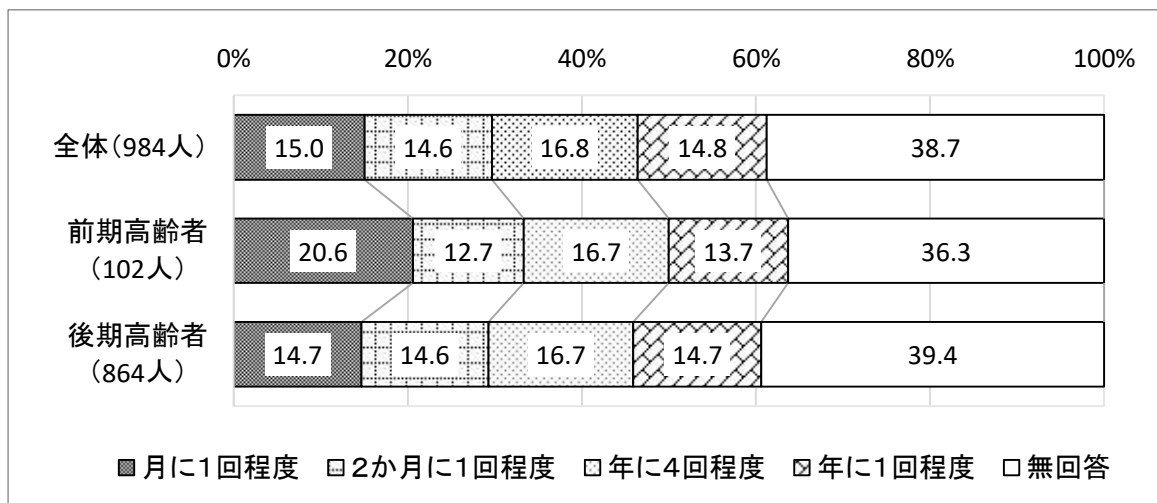


(4) 開催頻度

問 67 参加するとしたら、「介護者向け」教室の開催頻度はどの程度がいいですか。(○は1つ)

「介護者向け」教室の開催頻度については、どの回数も 15%前後ではほぼ同割合となっています。

前期・後期高齢者別でみると、前期高齢者では「月に1回程度」が 20.6%とやや多くなっています。

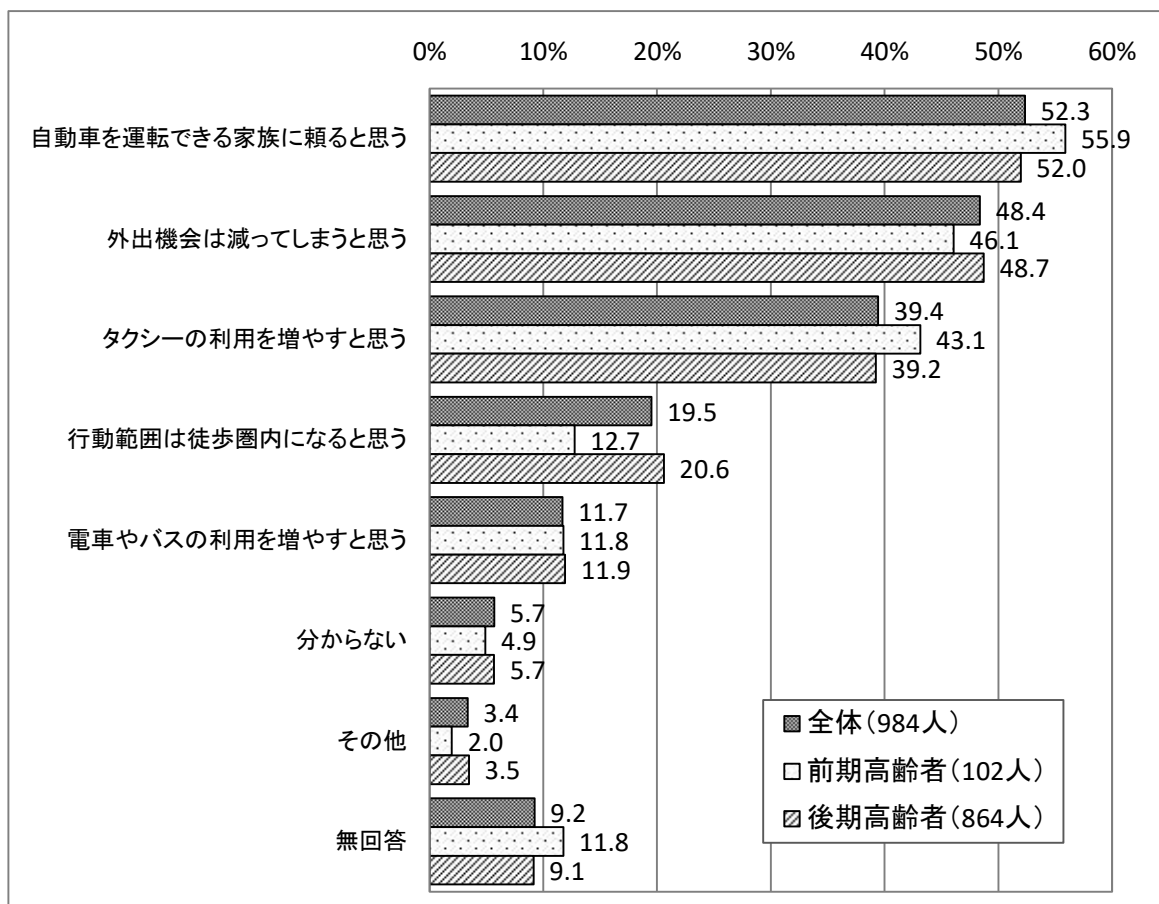


3. 自動車等の運転ができなくなった場合

問 68 現在、外出する際の移動手段として利用している自動車等(自転車、バイク)が自分で運転ができなくなった場合、どのような状況になると考えますか。(高齢で運転が不安になったり、運転免許証を返納したりした場合を想定してご回答ください) (〇はいくつでも)

自動車等の運転ができなくなった場合の状況については、「自動車を運転できる家族に頼ると思う」が52.3%と半数以上で最も多くなっています。

次いで、「外出機会は減ってしまうと思う」(48.4%)、「タクシーの利用を増やすと思う」(39.4%)と続いています。



■日常生活圏域別

自動車等の運転ができなくなった場合の状況を日常生活圏域別にみると、“井上”では「自動車を運転できる家族に頼ると思う」が63.2%とやや多く、「タクシーの利用を増やすと思う」が26.4%とやや少なくなっています。

“高甫”では、「外出機会は減ってしまうと思う」が36.9%とやや少なくなっています。

また、“仁礼”では「外出機会は減ってしまうと思う」が60.0%とやや多くなっています。

	合計	自動車を運転できる家族に頼ると思う	外出機会は減ってしまうと思う	タクシーの利用を増やすと思う	行動範囲は徒歩圏内になると思う	電車やバスの利用を増やすと思う
全体	984	52.3%	48.4%	39.4%	19.5%	11.7%
中央	171	46.2%	45.6%	44.4%	26.3%	11.7%
南部	177	52.5%	48.0%	41.8%	20.9%	11.3%
日滝	91	47.3%	47.3%	39.6%	17.6%	9.9%
豊洲	86	61.6%	57.0%	32.6%	12.8%	10.5%
旭ヶ丘	99	48.5%	47.5%	43.4%	15.2%	15.2%
日野	86	52.3%	50.0%	47.7%	16.3%	10.5%
井上	87	○ 63.2%	46.0%	● 26.4%	21.8%	3.4%
高甫	65	53.8%	● 36.9%	43.1%	13.8%	13.8%
仁礼	80	52.5%	○ 60.0%	32.5%	21.3%	18.8%
豊丘	42	52.4%	45.2%	31.0%	21.4%	14.3%

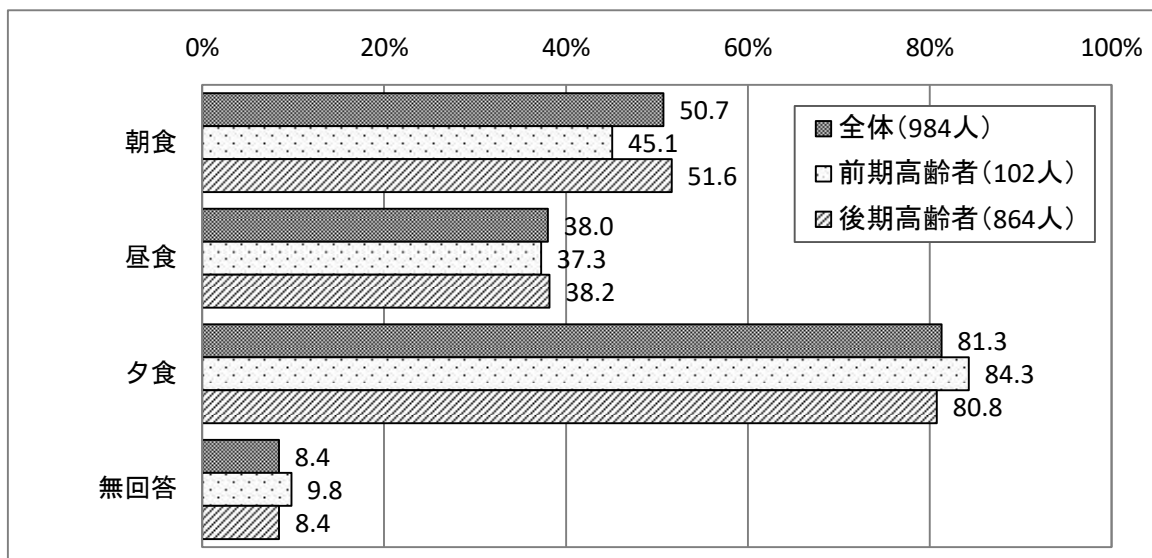
※上位5項目を掲載

4. 食生活について

(1) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事

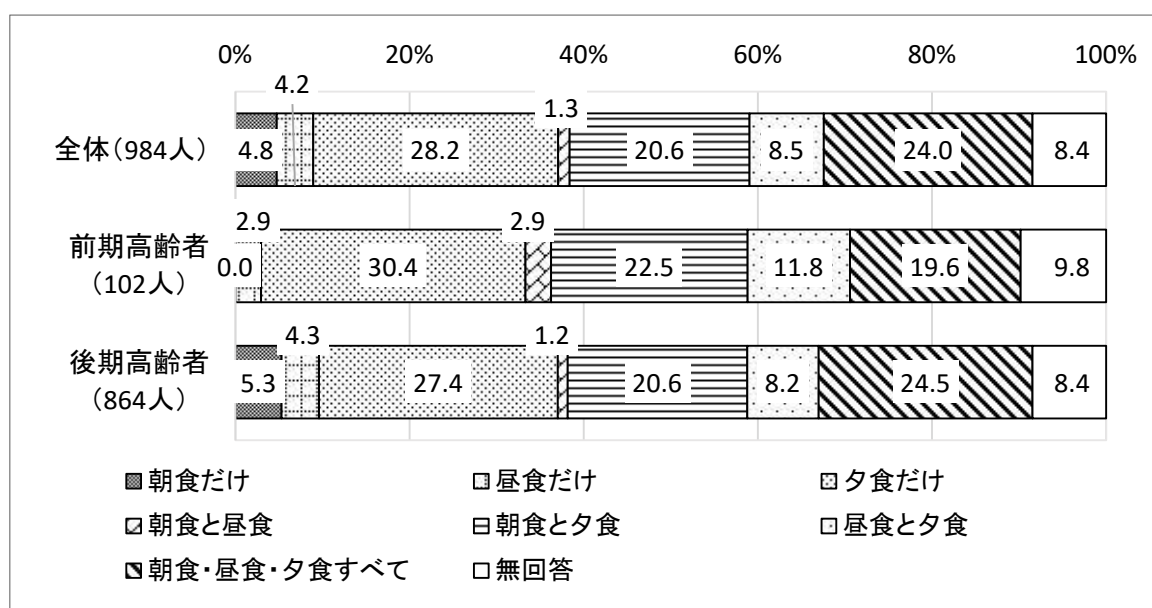
問 69 主食・主菜・副菜をそろえて食べるのはどの食事の時ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事は、「夕食」が81.3%と約8割になっています。「朝食」が50.7%、「昼食」が38.0%となっています。



「朝食と昼食」「朝食と夕食」など2食以上、主食・主菜・副菜をそろえて食べる方は54.5%と半数以上となっています。

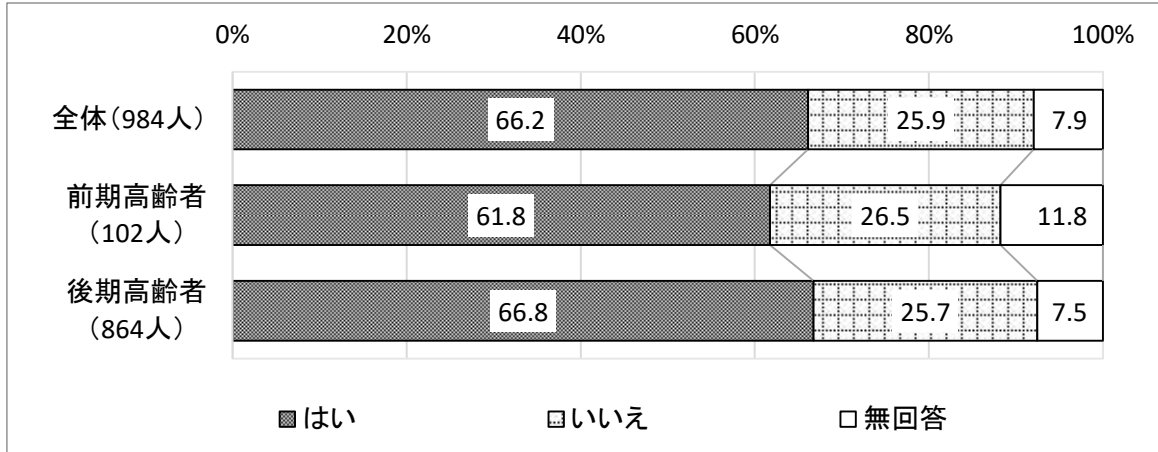
「朝食・昼食・夕食すべて」は24.0%と約4人に1人の割合となっています。



(2) 減塩意識

問 70 あなたは、普段の食生活で塩分を控えることを意識していますか。(○は1つ)

普段の食生活で塩分を控えることの意識については、「はい」が 66.2%と約3人に2人の割合となっています。



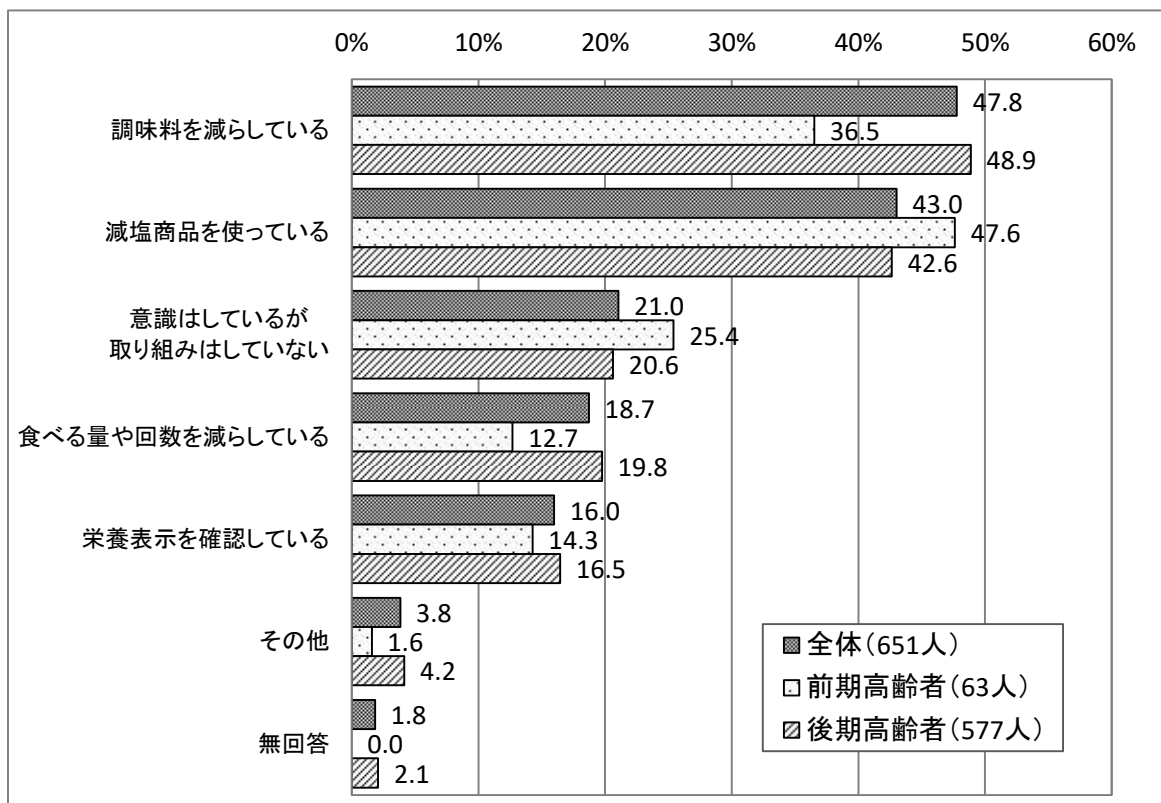
(3) 普段の食生活での意識

問 70 で「1 はい」とお答えの方におたずねします。

問 70-1 普段の食生活でどのようなことを意識していますか。(○はいくつでも)

減塩を意識している方に、普段の食生活での意識を聞いたところ、「調味料を減らしている」が 47.8%で最も多くなっています。次いで「減塩商品を使っている」(43.0%)、「意識はしているが取り組みはしていない」(21.0%)となっています。

前期高齢者では、「減塩商品を使っている」が 47.6%で最も多く、次いで「調味料を減らしている」が 36.5%となっています。



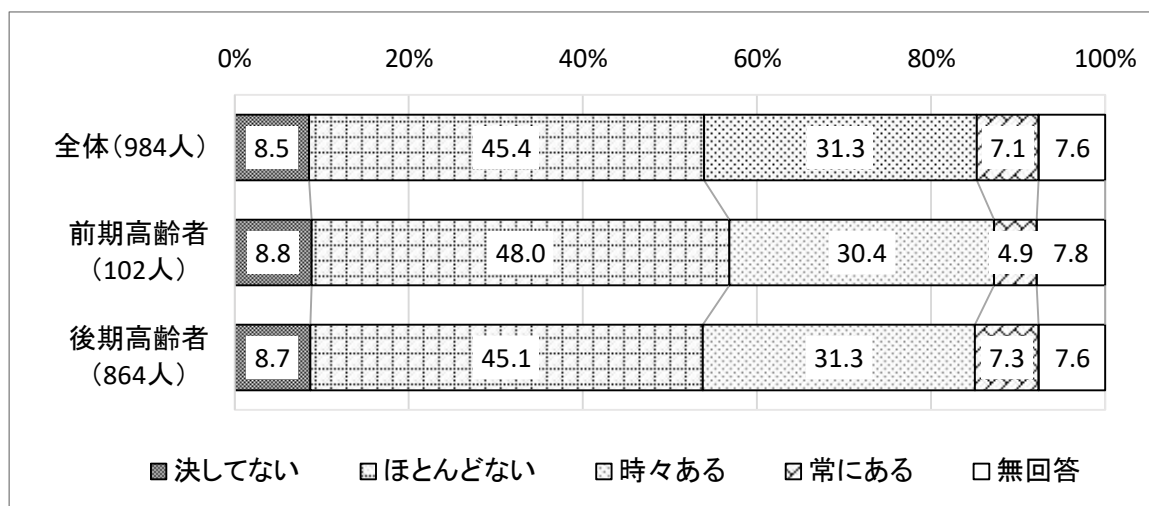
5. 孤立感や不安について

(1) 孤立感について

問 71 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(○は1つ)

孤立していると感じることについては、「ほとんどない」が 45.4%と4割以上を占めています。

「決してない」は 8.5%、「時々ある」は 31.3%、「常にある」は 7.1%となっています。



■男女性別、日常生活圏域別

孤立していると感じることについて、性別、日常生活圏域による差はみられませんでした。

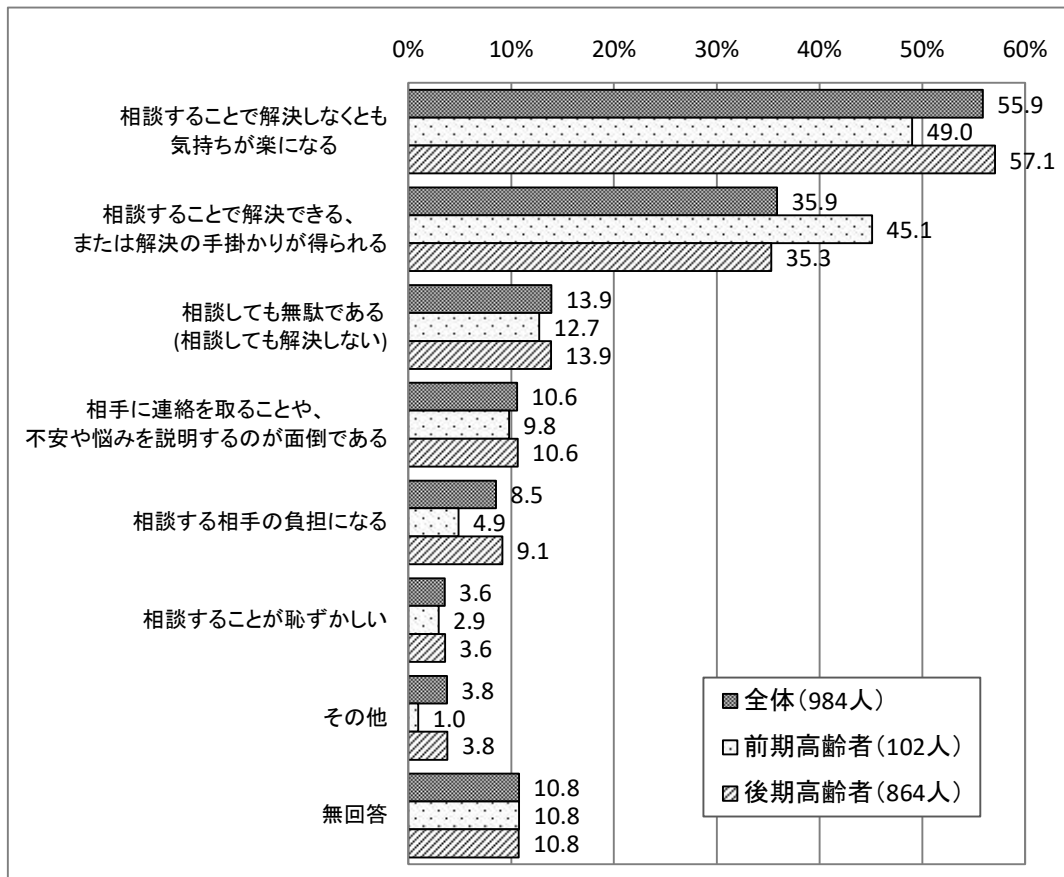
		合計	決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体		984	8.5%	45.4%	31.3%	7.1%	7.6%
性別	男性	339	8.8%	45.7%	31.3%	8.3%	5.9%
	女性	645	8.4%	45.3%	31.3%	6.5%	8.5%
日常生活圏域	中央	171	9.4%	43.9%	29.2%	9.9%	7.6%
	南部	177	10.7%	41.2%	32.8%	7.3%	7.9%
	日滝	91	8.8%	47.3%	31.9%	6.6%	5.5%
	豊洲	86	9.3%	46.5%	30.2%	10.5%	3.5%
	旭ヶ丘	99	7.1%	47.5%	32.3%	7.1%	6.1%
	日野	86	3.5%	50.0%	27.9%	7.0%	11.6%
	井上	87	11.5%	40.2%	34.5%	6.9%	6.9%
	高甫	65	9.2%	44.6%	27.7%	4.6%	13.8%
	仁礼	80	7.5%	50.0%	35.0%	3.8%	3.8%
	豊丘	42	2.4%	52.4%	31.0%	0.0%	14.3%

(2) 不安や悩みを相談することについて

問 72 あなたは不安や悩みを相談することについて、どのように感じますか。(〇はいくつでも)

不安や悩みを相談することについては、「相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」が 55.9%と半数以上を占めて最も多くなっており、次いで「相談することで解決できる、または解決の手掛かりが得られる」が 35.9%、「相談しても無駄である(相談しても解決しない)」が 13.9%で続いています。

前期高齢者では、「相談することで解決できる、または解決の手掛かりが得られる」が 45.1%と後期高齢者より1割ほど多くなっています。



■ 孤独感別

孤独感別にみると、孤独感が“決してない”方は「相談することで解決できる、または解決の手掛かりが得られる」との回答がやや多くなっていますが、“常にある”方では、相談への肯定的な回答が少なくなっています。

※上位4項目

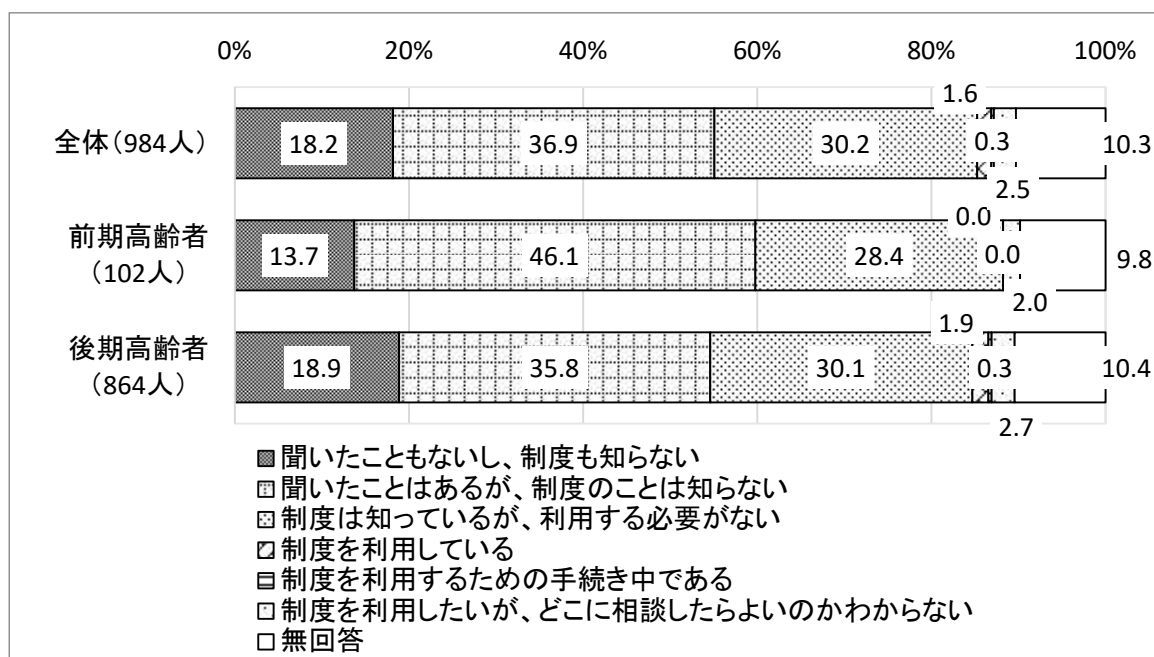
	合計	相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる	相談することで解決できる、または解決の手掛かりが得られる	相談しても無駄である(相談しても解決しない)	相手に連絡を取ることや、不安や悩みを説明するのが面倒である
全体	984	55.9%	35.9%	13.9%	10.6%
決してない	84	57.1%	〇 52.4%	8.3%	3.6%
ほとんどない	447	63.1%	45.4%	8.7%	9.2%
時々ある	308	60.7%	29.2%	20.8%	14.9%
常にある	70	◆ 35.7%	◆ 15.7%	◎ 34.3%	18.6%

6. 成年後見制度について

問 73 あなたは、成年後見制度をどの程度知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度の認知度をみると、「聞いたことはあるが、制度のことは知らない」が 36.9% で最も多くなっています。「制度は知っているが、利用する必要がない」が 30.2%、「聞いたこともないし、制度も知らない」は 18.2%と約2割になっています。

前期高齢者では「聞いたことはあるが、制度のことは知らない」が 46.1%と後期高齢者より 1割以上多くなっています。

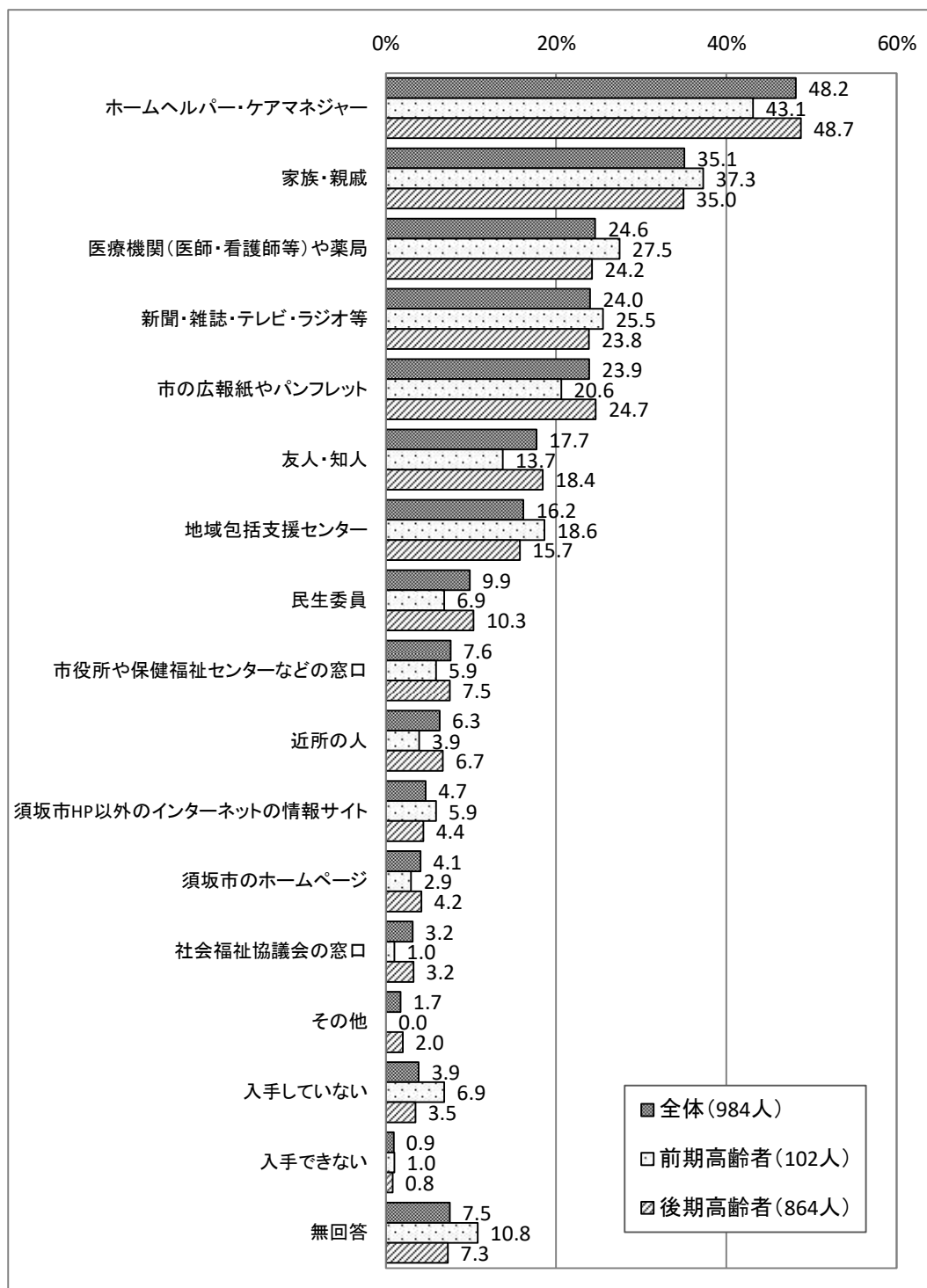


7. 情報入手やインターネットの利用について

(1) 介護や健康に関する情報

問 74 あなたは、介護や健康に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

介護や健康に関する情報の入手先としては、「ホームヘルパー・ケアマネジャー」が48.2%と5割近くで最も多くなっています。次いで「家族・親戚」(35.1%)、「医療機関(医師・看護師等)や薬局」(24.6%)と続いています。

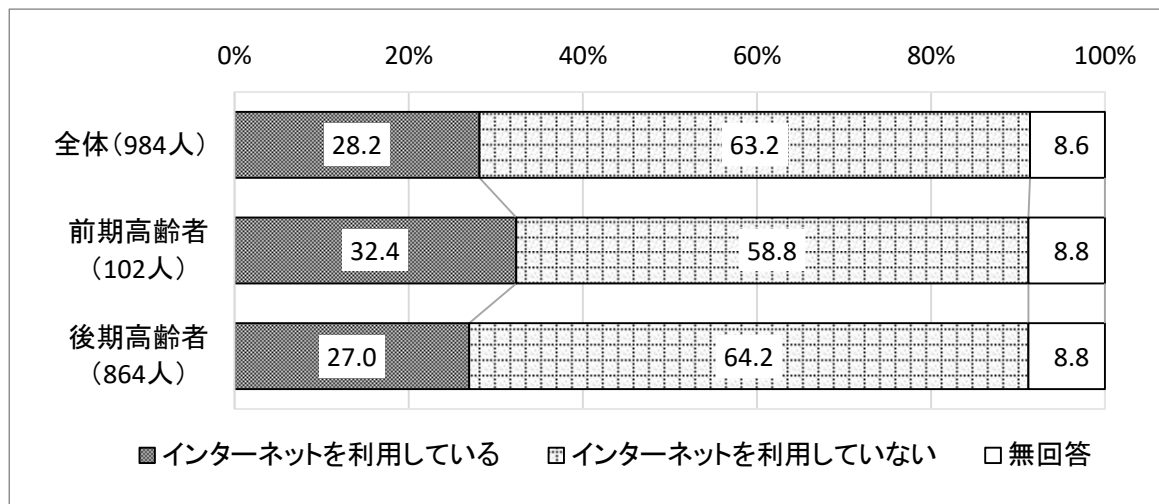


(2) インターネットの利用状況

問 75 あなたは、インターネットを利用していますか。(○は1つ)

インターネットの利用状況については、「インターネットを利用している」は 28.2%と3割弱となっています。

前期高齢者では「インターネットを利用している」は 32.4%と、後期高齢者よりやや多くなっています。



(3) インターネットを利用している機器

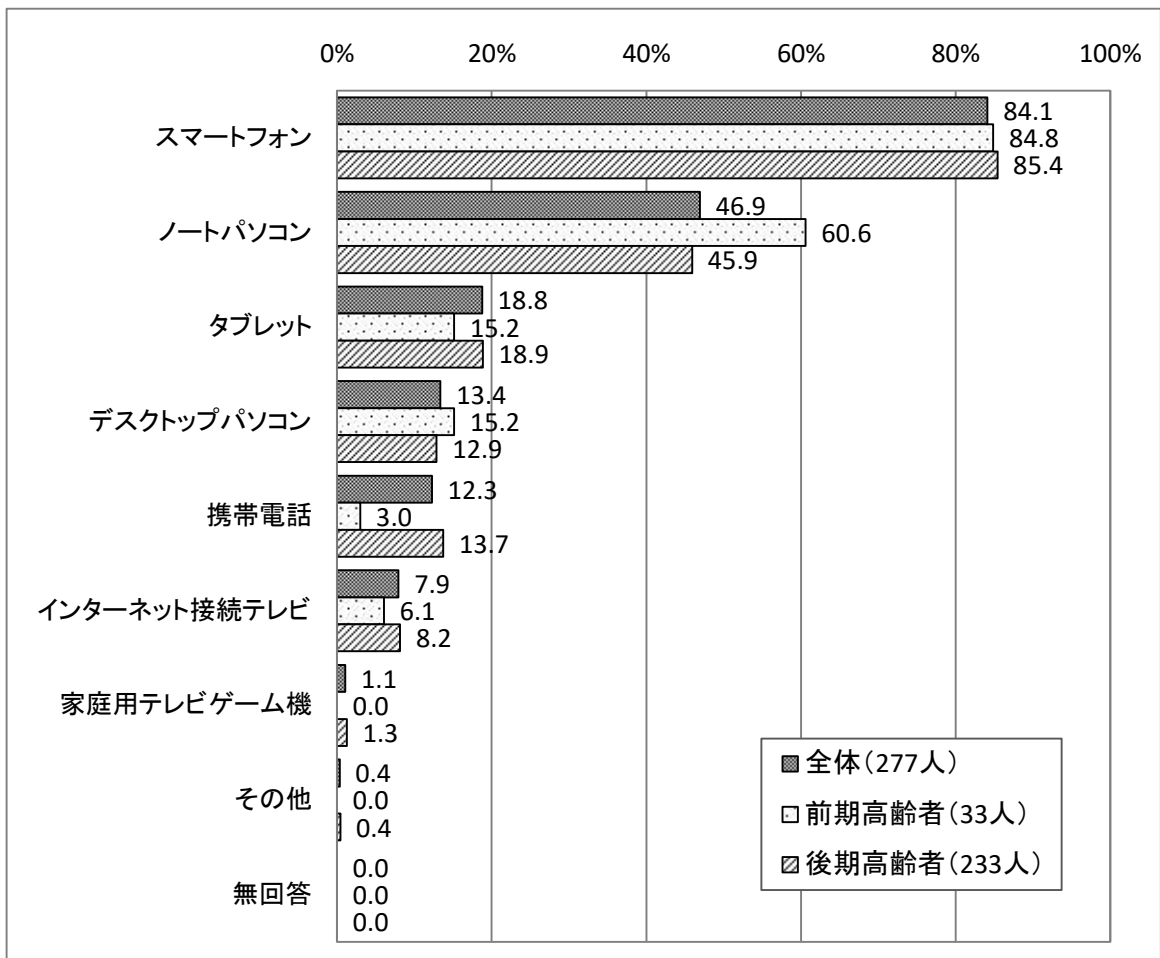
問 75 で「1 インターネットを利用している」とお答えの方におたずねします。

問 75-1 インターネットを利用している機器をすべて選んでください。(〇はいくつでも)

インターネットを利用している方の利用している機器については、「スマートフォン」が 84.1%と8割以上となっています。次いで「ノートパソコン」が 46.9%、「タブレット」が 18.8%と続いています。

前期高齢者では「ノートパソコン」が 60.6%と、後期高齢者より多くなっています。

また、後期高齢者では「携帯電話」が 13.7%と1割以上になっています。



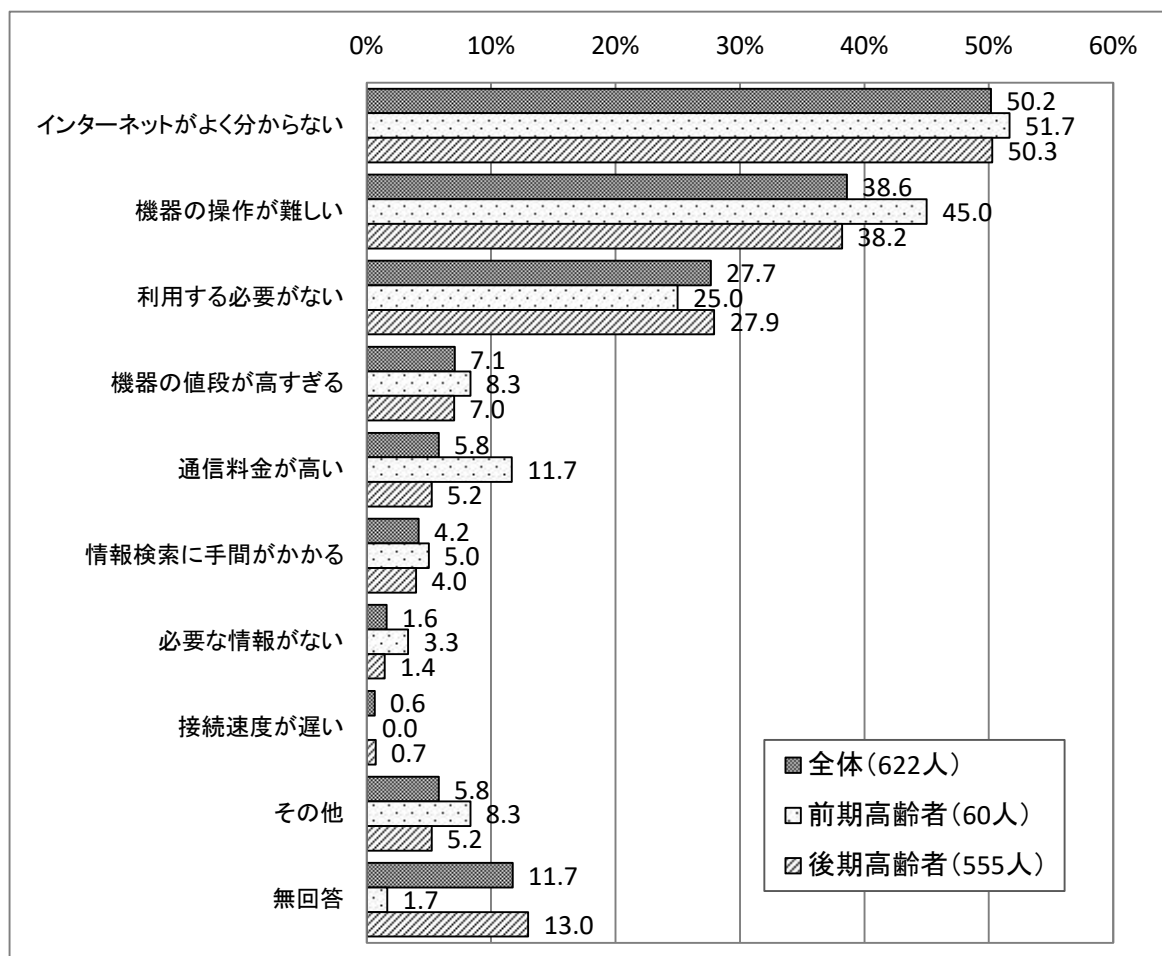
(4) インターネットを利用していない理由

問 75 で「2 インターネットを利用していない」とお答えの方におたずねします。

問 75-2 インターネットを利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

インターネットを利用していない方の理由をみると、「インターネットがよく分からない」が50.2%と半数を占めています。次いで、「機器の操作が難しい」(38.6%)、「利用する必要がない」(27.7%)と続いています。

前期高齢者では、「機器の操作が難しい」が45.0%と、後期高齢者よりやや多くなっています。



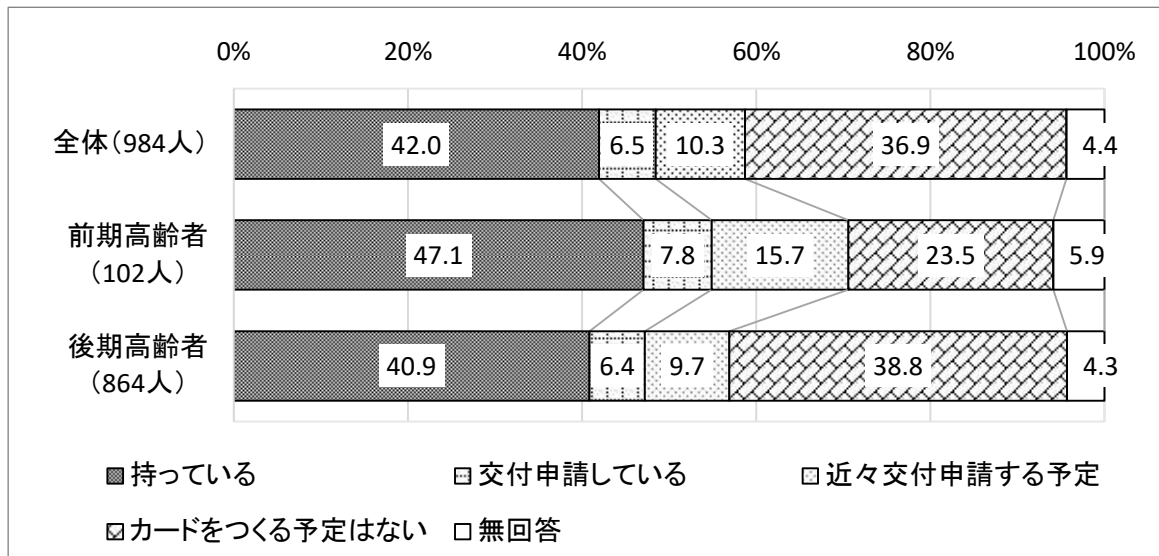
(5) マイナンバーカードの所持状況

問 76 あなたは、マイナンバーカードを持っていますか。(○は1つ)

マイナンバーカードについては、「持っている」が 42.0%と4割以上になっています。「交付申請している」が 6.5%、「近々交付申請する予定」が 10.3%となっています。

一方、「カードをつくる予定はない」は 36.9%となっています。

前期高齢者では、「カードをつくる予定はない」が 23.5%と少なく、「近々交付申請する予定」が 15.7%とやや多くなっています。



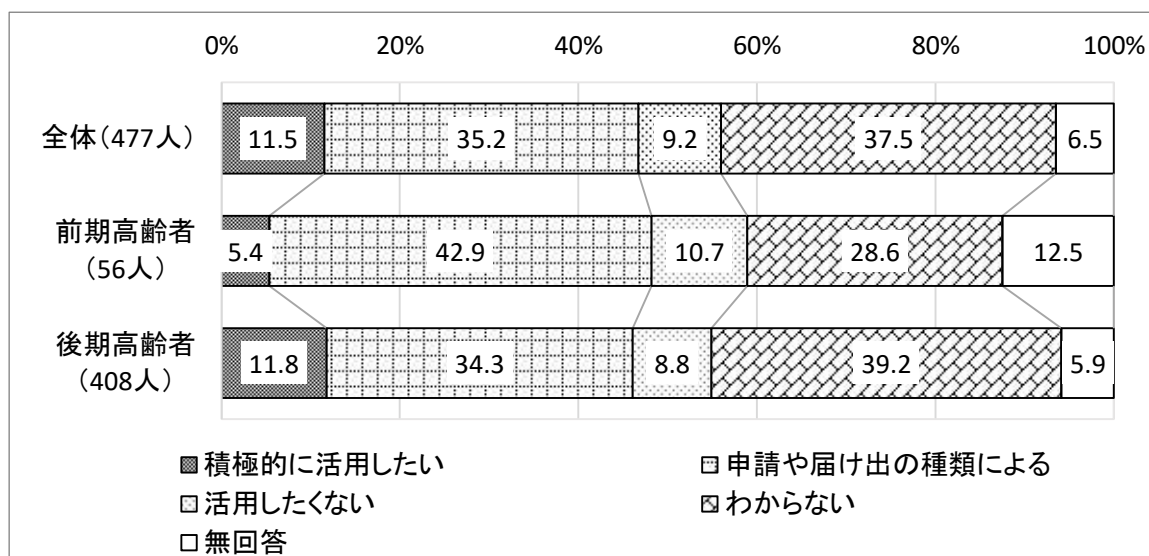
(6) マイナンバーカードでのオンライン申請や届け出

問 76 で「1 持っている」あるいは「2 交付申請している」とお答えの方におたずねします。

問 76-1 マイナンバーカードによるオンライン申請や届け出を行うことができるようになったら、活用したいと思いますか。(○は1つ)

マイナンバーカードでのオンライン申請や届け出については、「積極的に活用したい」が11.5%、「申請や届け出の種類による」が35.2%となっています。

「活用したくない」は9.2%と1割未満となっていますが、「わからない」との回答が37.5%と多くなっています。

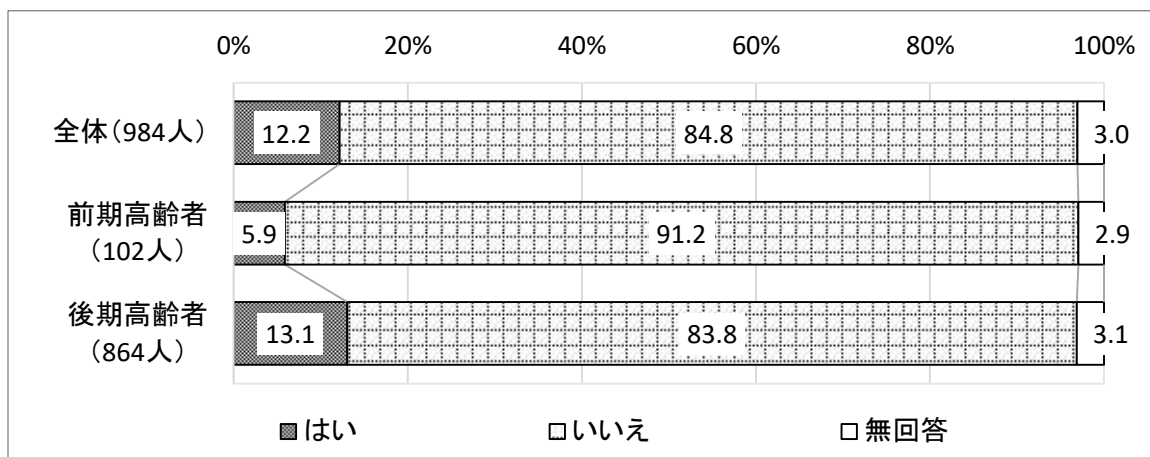


8. エンディングノートについて

問 77 あなたは、エンディングノート(自身の死後の希望を書き留めておくもの)を書いたことがありますか。(〇は1つ)

エンディングノートを書いた経験については、「はい」が 12.2%、「いいえ」が 84.8%となっています。

前期高齢者では、エンディングノートを書いたことのある方は 5.9%となっています。



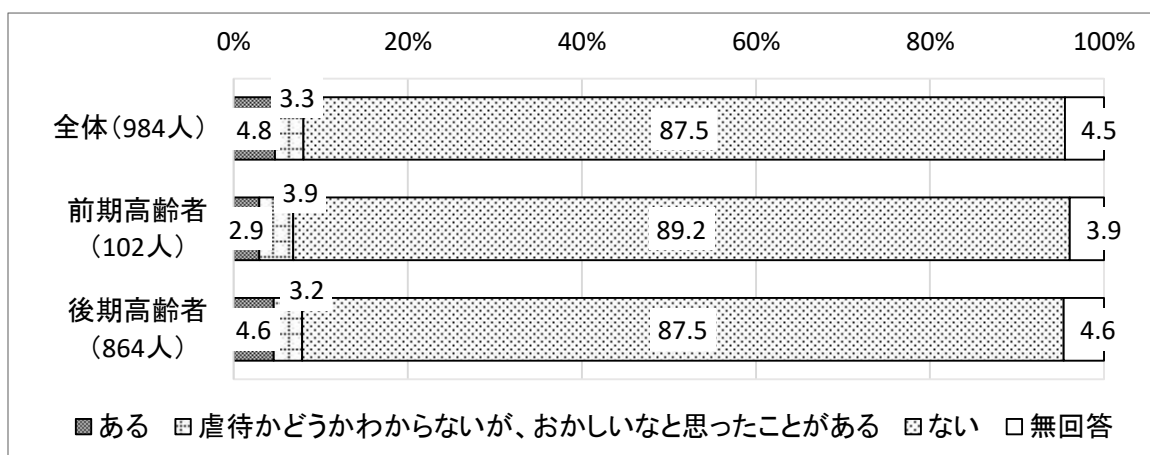
9. 虐待について

(1) 虐待の察知

問 78 最近、テレビや新聞等で、要介護者や高齢者の虐待について取り上げられています。あなたの身近なところで、要介護者や高齢者の虐待を見たり聞いたりしたことがありますか。(〇は1つ)

要介護者や高齢者の虐待を見たり聞いたりしたことについては、「ある」が 4.8%、「虐待かどうか分からないが、おかしいなと思ったことがある」が 3.3%となっています。

回答人数をみると、「ある」が 47 人、「虐待かどうか分からないが、おかしいなと思ったことがある」が 32 人となっています。

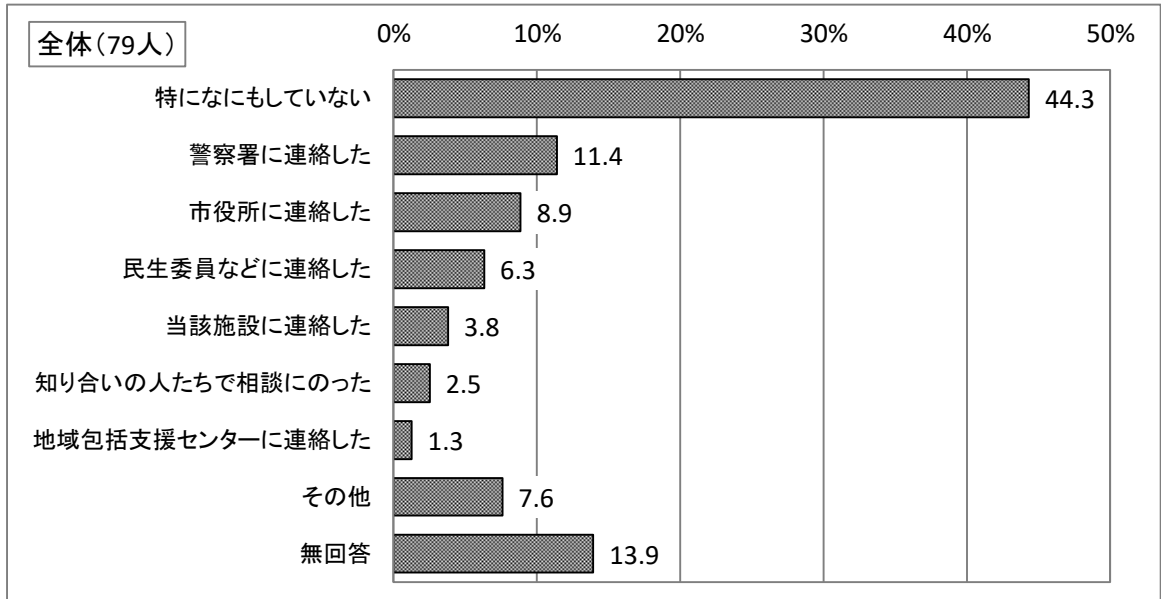


(2) 虐待を察知した時の対応

問 78 で「1 ある」あるいは「2 虐待かどうか分からないが、おかしいなと思ったことがある」とお答えの方におたずねします。

問 78-1 その時どのように対応しましたか。(○は1つ)

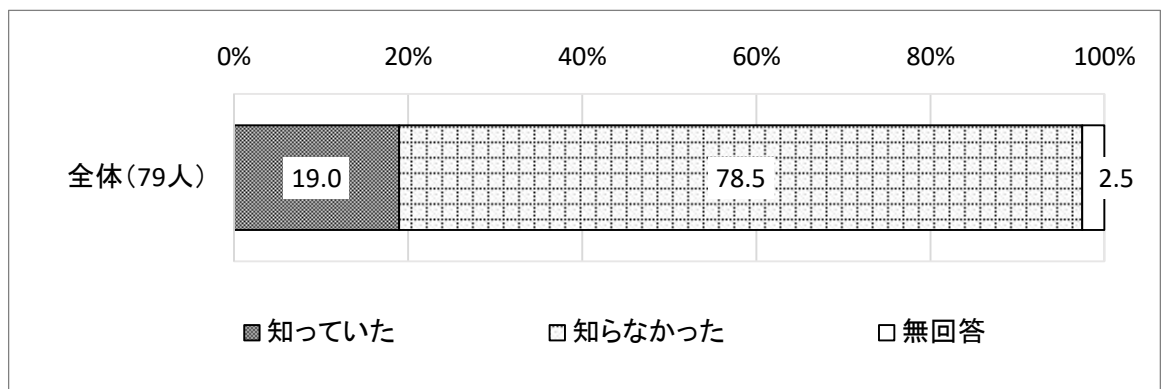
虐待を察知した時の対応については、「特になにもしていない」が 44.3% (35 人) で最も多くなっています。次いで、「警察署に連絡した」が 11.4% (9 人)、「市役所に連絡した」が 8.9% (7 人)となっています。



(3) 高齢者虐待防止法における通報義務

問 78-2 高齢者虐待防止法では、「生命身体に重大な危険のおそれ」がない場合でも、市への通報は努力義務とされていますが知っていましたか。

高齢者虐待防止法による通報義務については、「知っていた」が 19.0%と2割弱になっています。

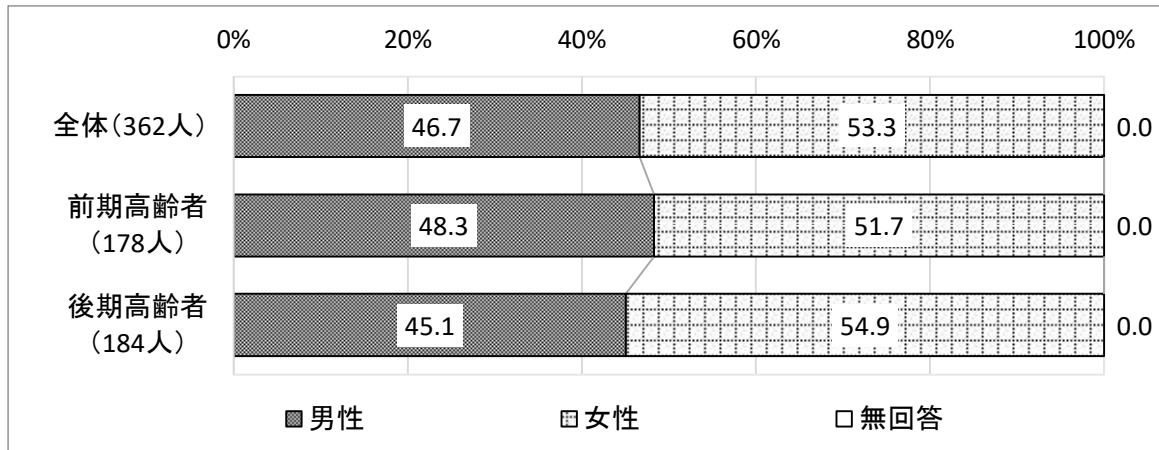


第3章 元氣高齡者調査結果

1. 回答者のプロフィール

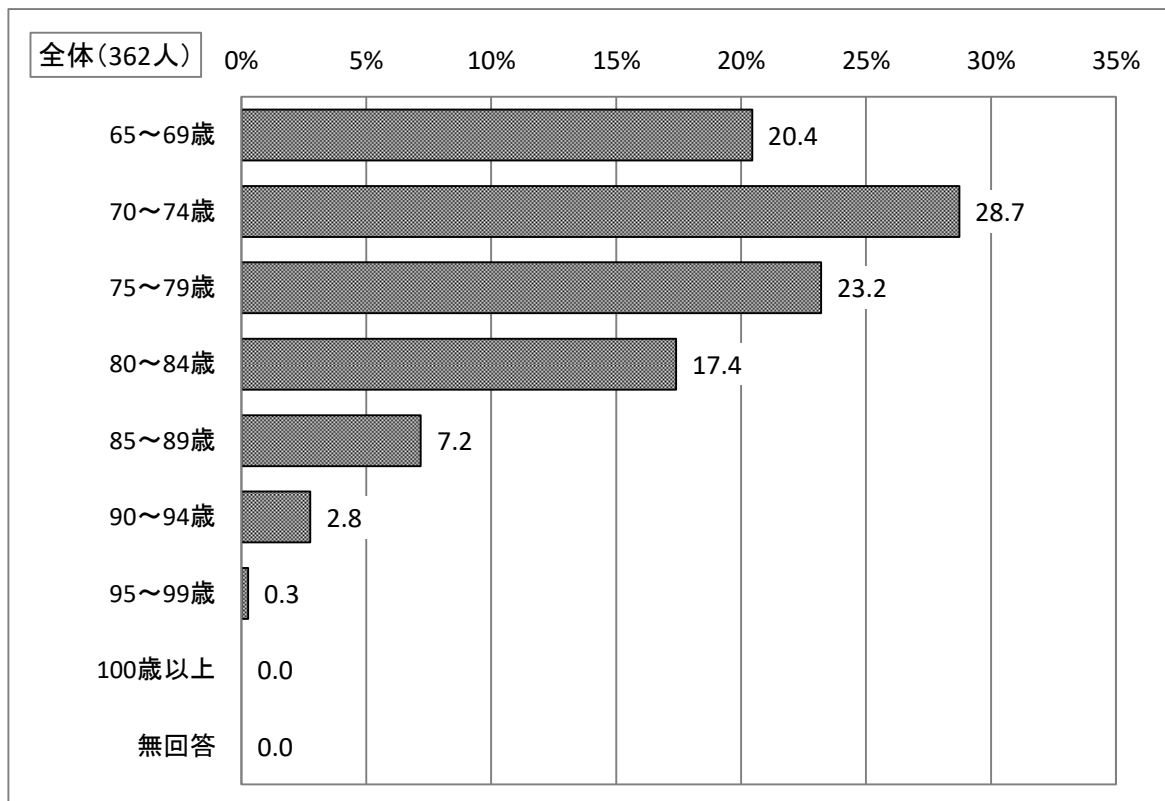
(1) 性別

回答者の性別は、女性が 53.3%、男性が 46.7%となっています。



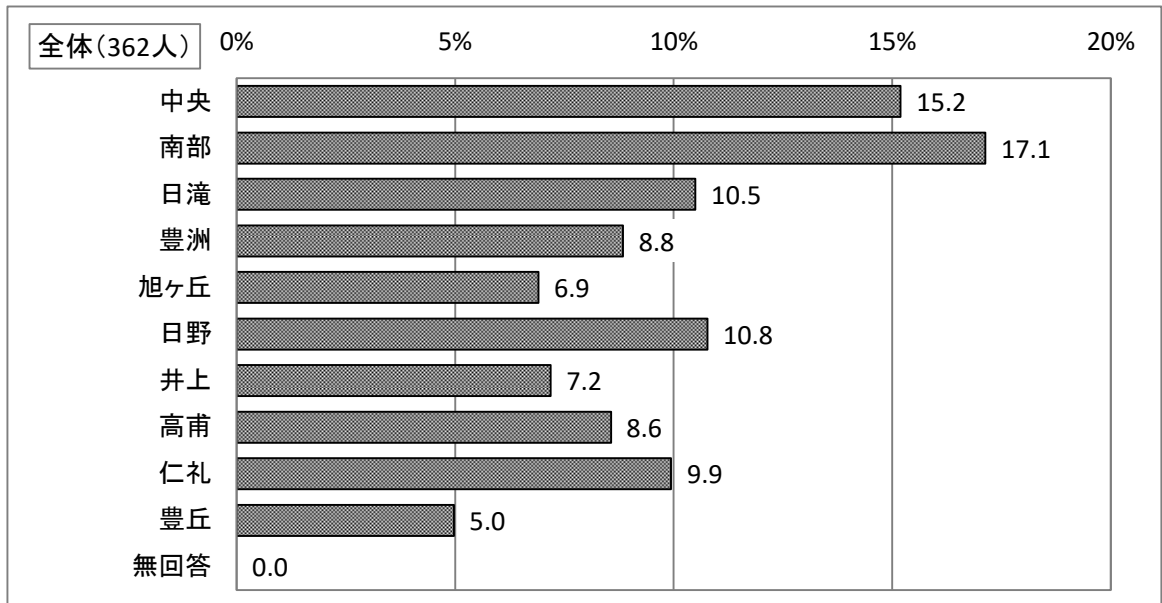
(2) 年齢

年齢は、「70～74 歳」が 28.7%で最も多く、次いで「75～79 歳」が 23.2%で続いています。



(3) 日常生活圏域

日常生活圏域は、中央と南部が多くなっています。

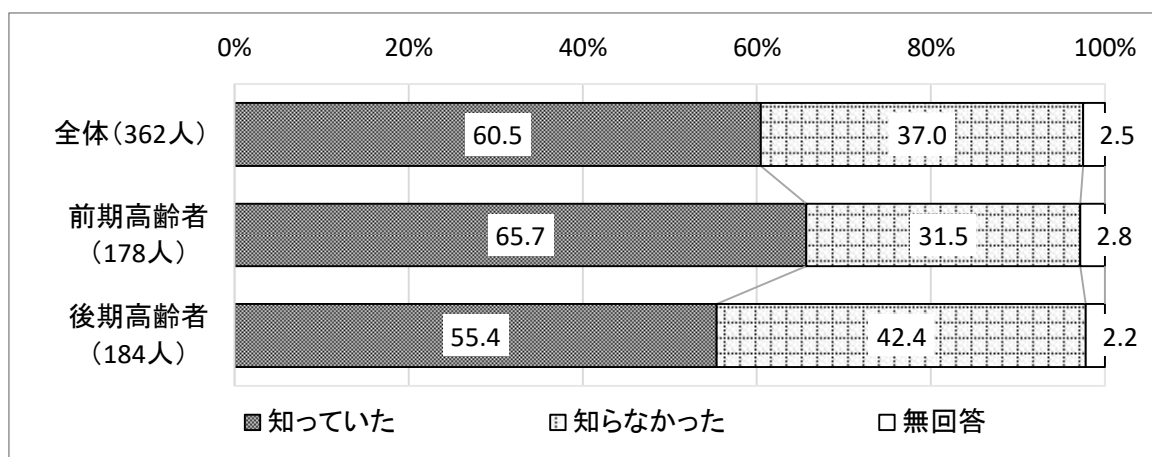


2. 要介護認定について

(1) 認定調査の必要性の認知

問 72 あなたは、介護サービスを利用するためには、まず市の認定調査員による認定調査が必要なことを知っていましたか。(〇は1つ)

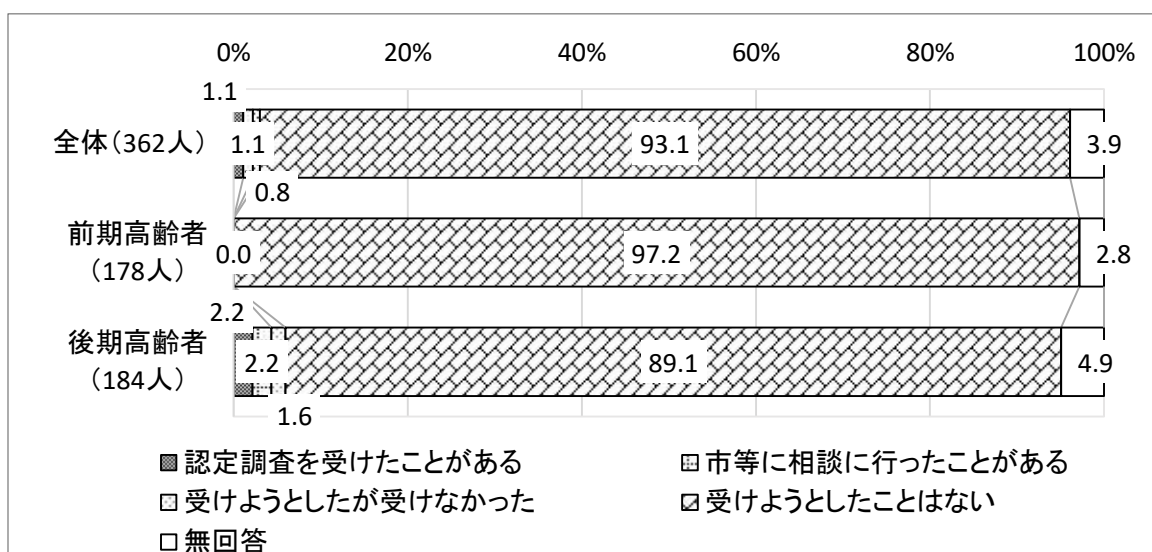
認定調査の必要性の認知度をみると、「知っていた」が60.5%と6割になっています。前期・後期高齢者別でみる、前期高齢者では「知っていた」が65.7%とやや多くなっています。



(2) 要介護認定を受けようとしたこと

問 73 あなたは、これまでに要介護認定を受けようとしたことがありますか。(〇は1つ)

これまでに要介護認定を受けようとしたことについては、「受けようとしたことはない」が93.1%と9割以上を占めています。

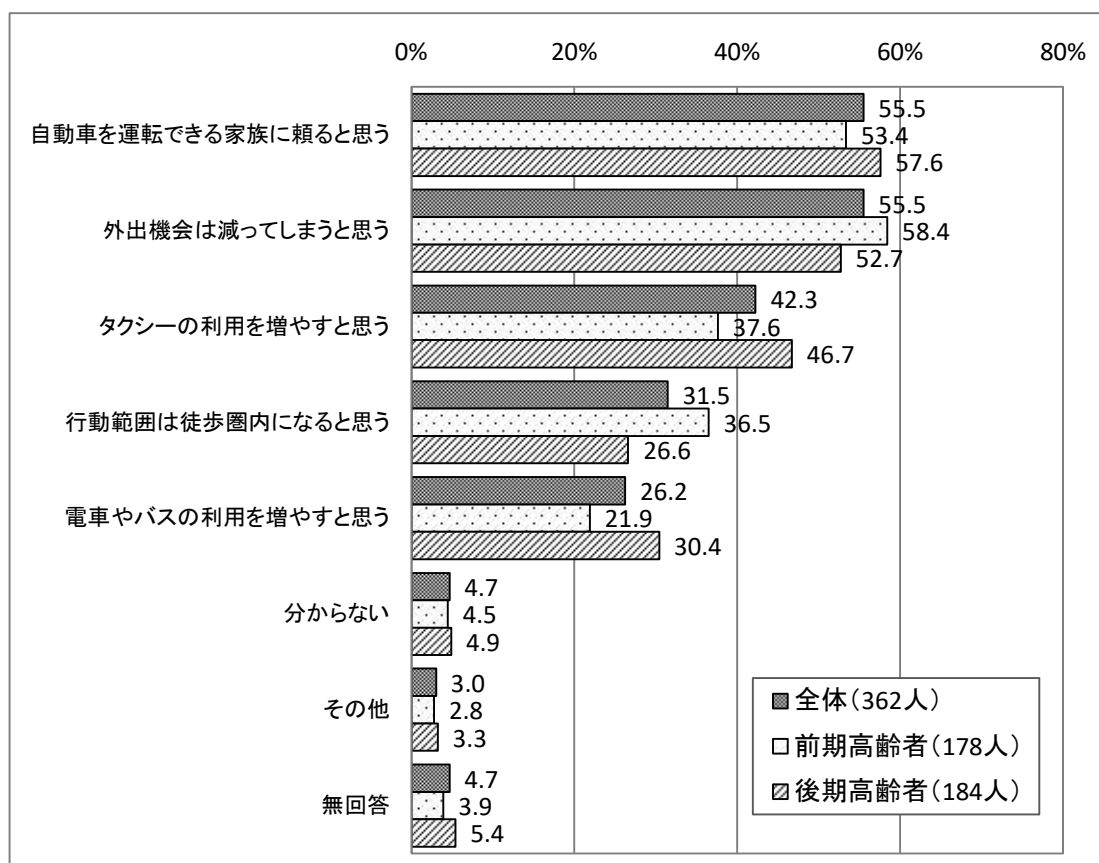


3. 自動車等の運転ができなくなった場合

問 74 現在、外出する際の移動手段として利用している自動車等(自転車、バイク)が自分で運転ができなくなった場合、どのような状況になると考えますか。(高齢で運転が不安になったり、運転免許証を返納したりした場合を想定してご回答ください) (〇はいくつでも)

自動車等の運転ができなくなった場合の状況については、「自動車を運転できる家族に頼ると思う」と「外出機会は減ってしまうと思う」が共に 55.5%と半数以上になっています。

次いで、「タクシーの利用を増やすと思う」(42.3%)、「行動範囲は徒歩圏内になると思う」(31.5%)と続いています。



■ 日常生活圏域別(参考)

	合計	自動車を運転できる家族に頼ると思う	外出機会は減ってしまうと思う	タクシーの利用を増やすと思う	行動範囲は徒歩圏内になると思う	電車やバスの利用を増やすと思う
全体	362	55.5%	55.5%	42.3%	31.5%	26.2%
中央	55	● 43.6%	52.7%	36.4%	36.4%	30.9%
南部	62	61.3%	46.8%	46.8%	37.1%	22.6%
日滝	38	52.6%	60.5%	42.1%	34.2%	● 15.8%
豊洲	32	59.4%	◎ 78.1%	40.6%	31.3%	● 9.4%
旭ヶ丘	25	48.0%	48.0%	36.0%	24.0%	○ 40.0%
日野	39	53.8%	53.8%	41.0%	35.9%	17.9%
井上	26	65.4%	53.8%	38.5%	○ 42.3%	19.2%
高甫	31	54.8%	● 45.2%	◎ 64.5%	● 19.4%	35.5%
仁礼	36	○ 66.7%	63.9%	33.3%	● 19.4%	36.1%
豊丘	18	50.0%	61.1%	44.4%	22.2%	◎ 50.0%

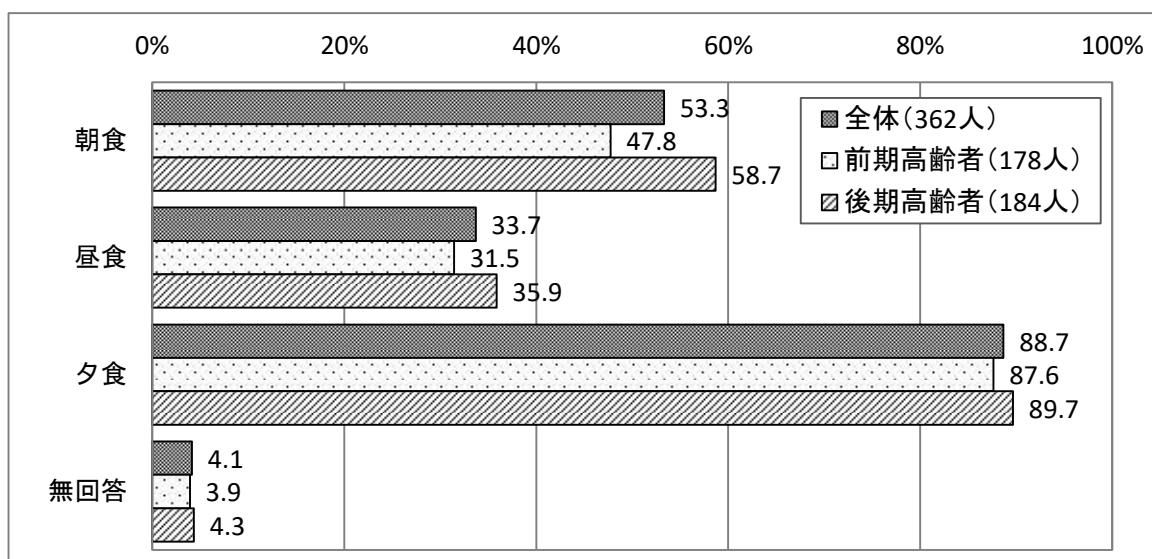
※上位5項目を掲載

4. 食生活について

(1) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事

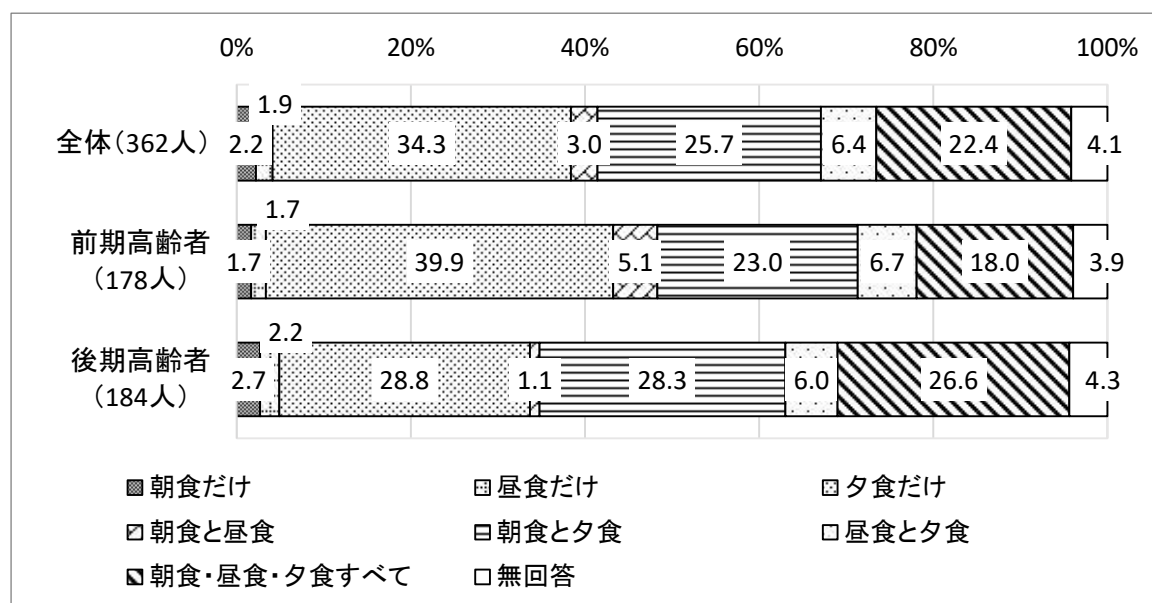
問 75 主食・主菜・副菜をそろえて食べるのはどの食事の時ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事は、「夕食」が88.7%と9割近くになっています。「朝食」が53.3%、「昼食」が33.7%となっています。後期高齢者では、「朝食」が58.7%と6割近くになっています。



「朝食と昼食」「朝食と夕食」など2食以上、主食・主菜・副菜をそろえて食べる方は57.5%と半数以上となっています。

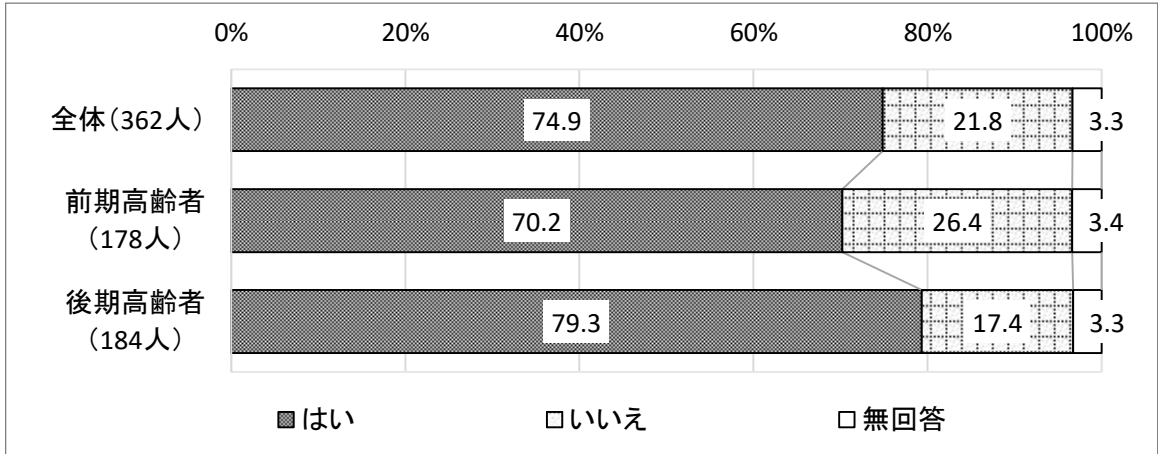
「朝食・昼食・夕食すべて」は22.4%となっており、後期高齢者で割合が高くなっています。



(2) 減塩意識

問 76 あなたは、普段の食生活で塩分を控えることを意識していますか。(○は1つ)

普段の食生活で塩分を控えること意識については、「はい」が 74.9%と約4人に3人の割合となっており、後期高齢者で高くなっています。

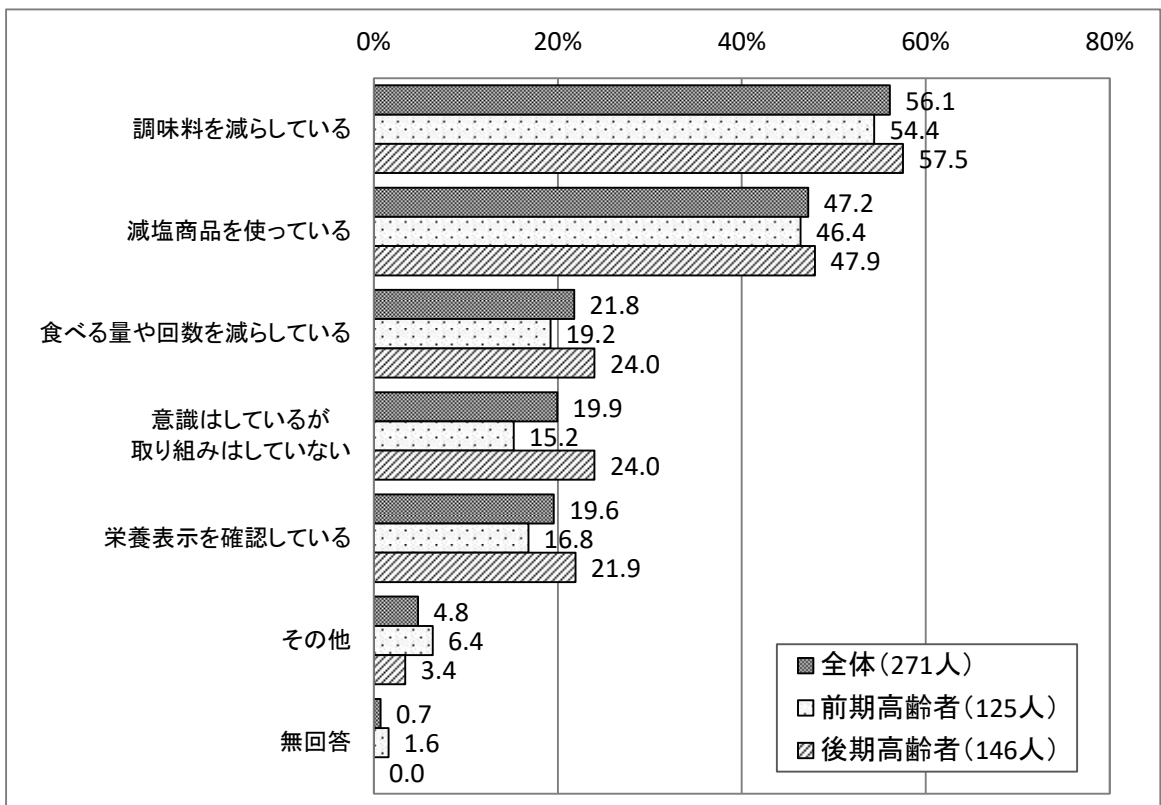


(3) 普段の食生活での意識

問 76 で「1 はい」とお答えの方におたずねします。

問 76-1 普段の食生活でどのようなことを意識していますか。(○はいくつでも)

減塩を意識している方に、普段の食生活での意識を聞いたところ、「調味料を減らしている」が 56.1%で最も多くなっています。次いで「減塩商品を使っている」(47.2%)、「食べる量や回数を減らしている」(21.8%)となっています。



■男女性別

性別でみると、男性では「調味料を減らしている」との回答がやや少なくなっています。

	合計	減塩商品を使っている	栄養表示を確認している	調味料を減らしている	食べる量や回数を減らしている
全体	271	47.2%	19.6%	56.1%	21.8%
男性	118	50.0%	17.8%	● 44.9%	25.4%
女性	153	45.1%	20.9%	64.7%	19.0%

※上位4項目

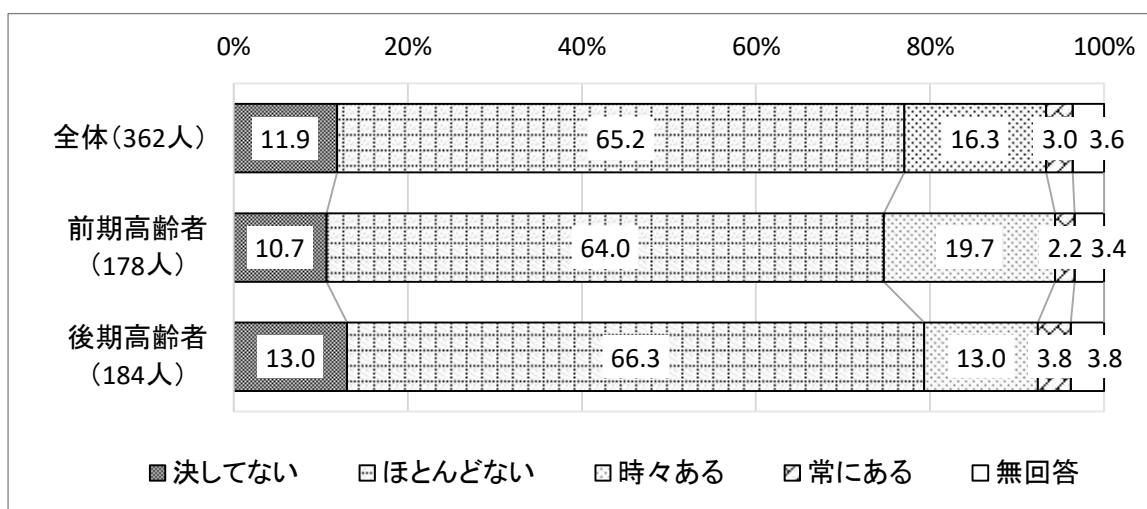
5. 孤立感や不安について

(1) 孤立感について

問 77 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(○は1つ)

孤立していると感じることについては、「ほとんどない」が 65.2%と6割以上を占めています。

「決してない」は 11.9%、「時々ある」は 16.3%、「常にある」は 3.0%となっています。



■男女性別

孤立していると感じることについて、性別による差はみられませんでした。

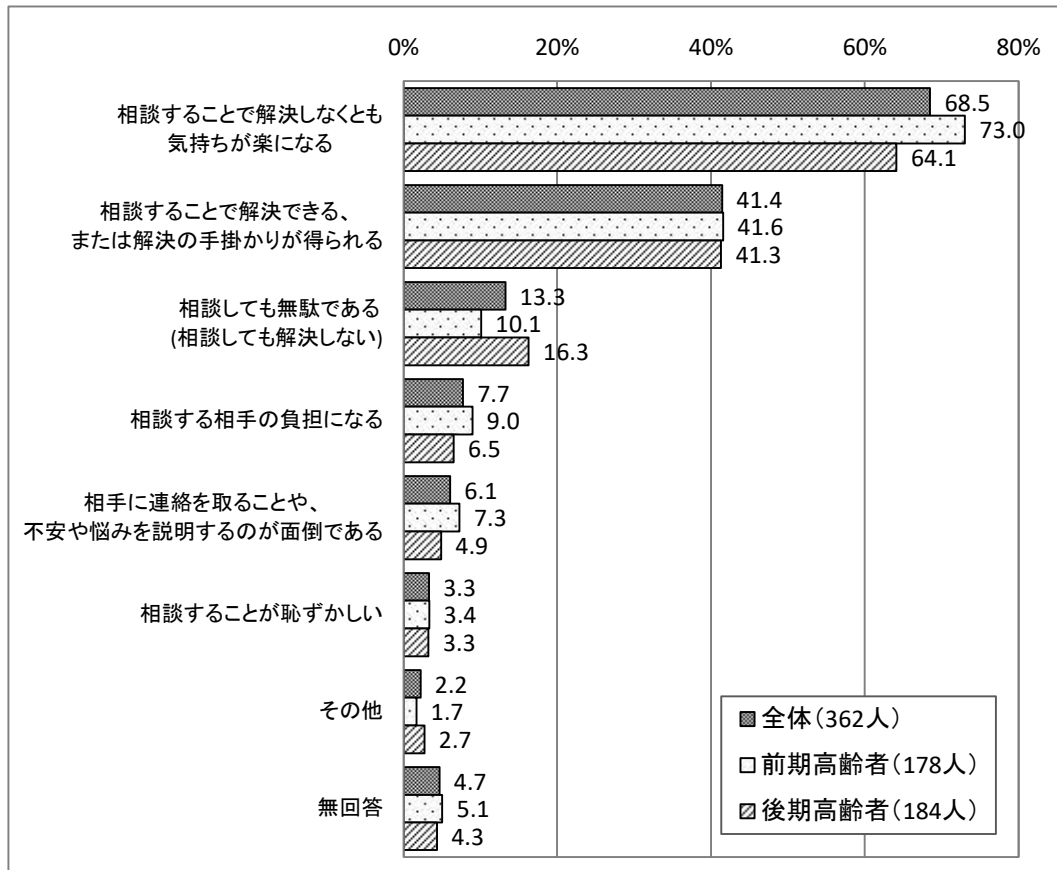
	合計	決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体	362	11.9%	65.2%	16.3%	3.0%	3.6%
男性	169	11.2%	65.7%	17.2%	3.6%	2.4%
女性	193	12.4%	64.8%	15.5%	2.6%	4.7%

(2) 不安や悩みを相談することについて

問 78 あなたは不安や悩みを相談することについて、どのように感じますか。(〇はいくつでも)

不安や悩みを相談することについては、「相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」が68.5%と7割近くを占めて最も多くなっており、次いで「相談することで解決できる、または解決の手掛かりが得られる」が41.4%、「相談しても無駄である(相談しても解決しない)」が13.3%で続いています。

前期高齢者では、「相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」が73.0%と後期高齢者より1割ほど多くなっています。



■ 孤独感別

孤独感別にみると、孤独感が“決してない”方は「相談することで解決できる、または解決の手掛かりが得られる」との回答が7割以上を占めていますが、“時々ある”“常にある”方では低くなっています。

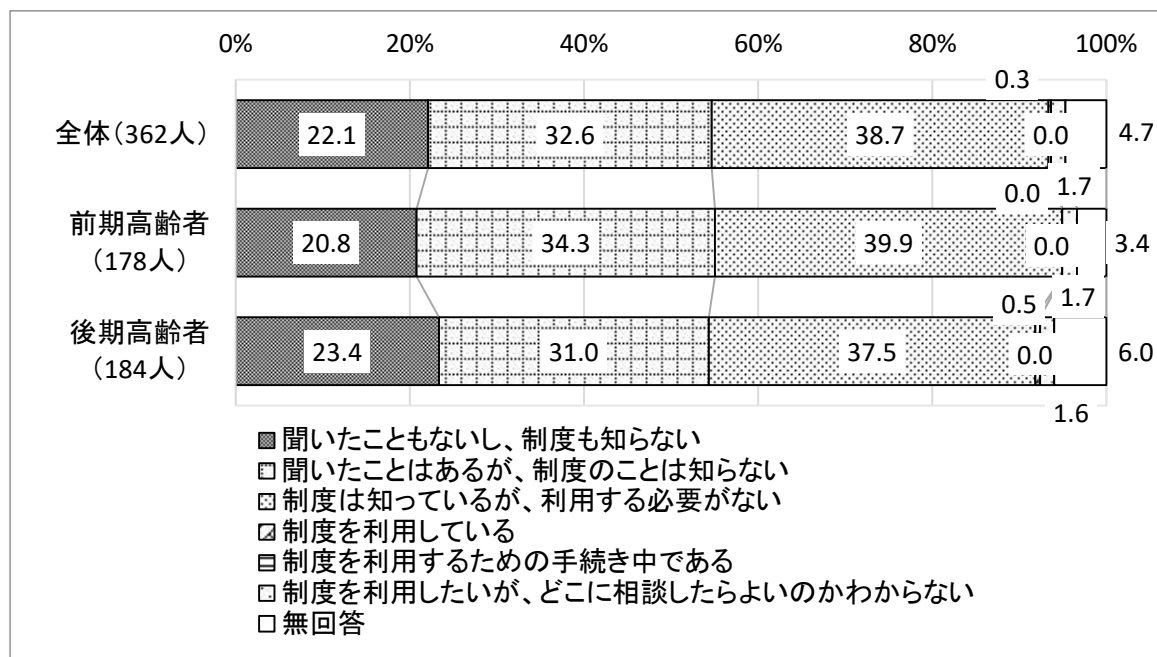
※上位4項目

	合計	相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる	相談することで解決できる、または解決の手掛かりが得られる	相談しても無駄である(相談しても解決しない)	相談する相手の負担になる
全体	362	68.5%	41.4%	13.3%	7.7%
決してない	43	74.4%	◎ 72.1%	7.0%	0.0%
ほとんどない	236	72.9%	44.1%	11.0%	5.9%
時々ある	59	62.7%	● 22.0%	22.0%	○ 18.6%
常にある	11	◆ 36.4%	◆ 0.0%	◎ 54.5%	○ 27.3%

6. 成年後見制度について

問 79 あなたは、成年後見制度をどの程度知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度の認知度をみると、「制度は知っているが、利用する必要がない」が38.7%で最も多くなっています。「聞いたことはあるが、制度のことは知らない」が32.6%、「聞いたこともないし、制度も知らない」は22.1%となっています。

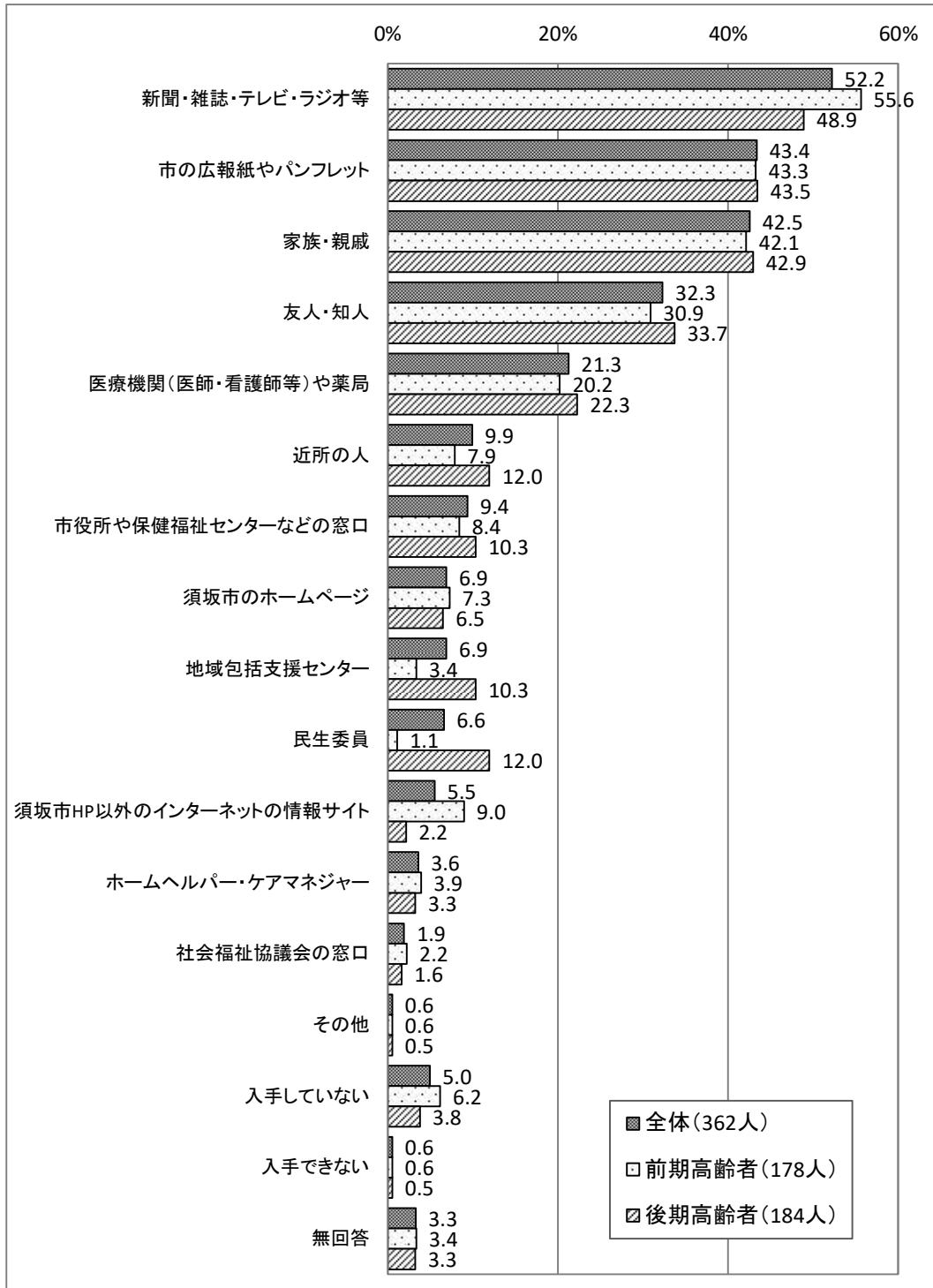


7. 情報入手やインターネットの利用について

(1) 介護や健康に関する情報

問 80 あなたは、介護や健康に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

介護や健康に関する情報の入手先としては、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等」が 52.2%と 5割以上で最も多くなっています。次いで「市の広報紙やパンフレット」(43.4%)、「家族・親戚」(42.5%)と続いています。

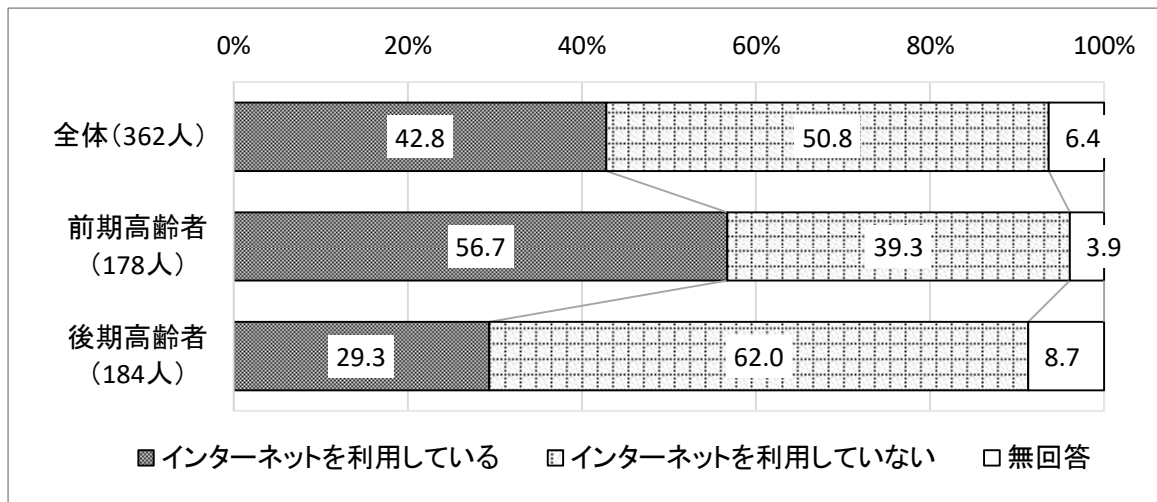


(2) インターネットの利用状況

問 81 あなたは、インターネットを利用していますか。(○は1つ)

インターネットの利用状況については、「インターネットを利用している」は 42.8%と4割以上となっています。

前期高齢者では「インターネットを利用している」は 56.7%と半数以上になっていますが、後期高齢者は 29.3%と約3割となっています。



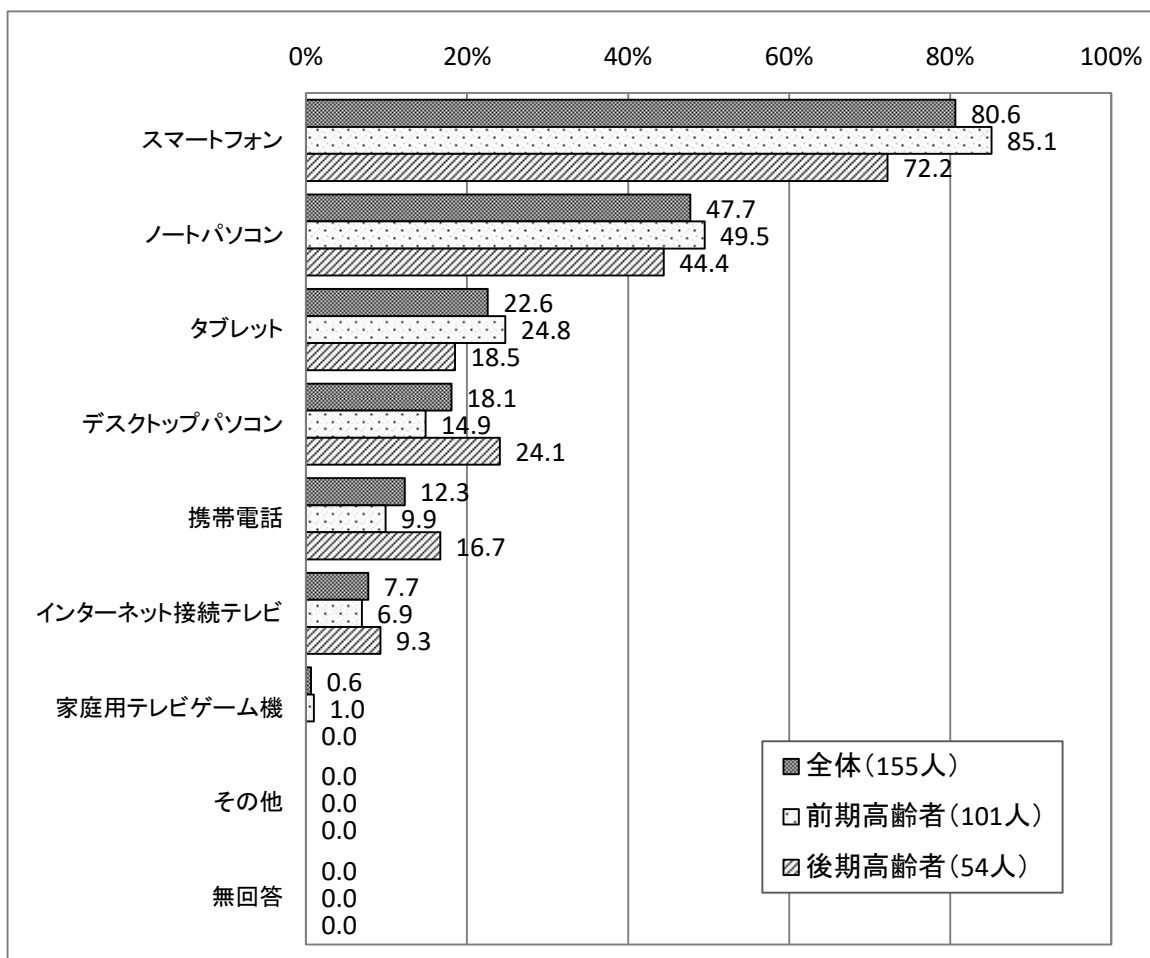
(3) インターネットを利用している機器

問 81 で「1 インターネットを利用している」とお答えの方におたずねします。

問 81-1 インターネットを利用している機器をすべて選んでください。(○はいくつでも)

インターネットを利用している方の利用している機器については、「スマートフォン」が80.6%と8割になっています。次いで「ノートパソコン」が47.7%、「タブレット」が22.6%と続いています。

後期高齢者では「デスクトップパソコン」と「携帯電話」がやや多くなっています。



■ 男女性別

性別で見ると、女性では「スマートフォン」の利用がやや多く、「ノートパソコン」と「デスクトップパソコン」の利用が少なくなっています。

※上位4項目

	合計	スマートフォン	タブレット	ノートパソコン	デスクトップパソコン
全体	155	80.6%	22.6%	47.7%	18.1%
男性	84	71.4%	20.2%	○ 58.3%	27.4%
女性	71	○ 91.5%	25.4%	● 35.2%	● 7.0%

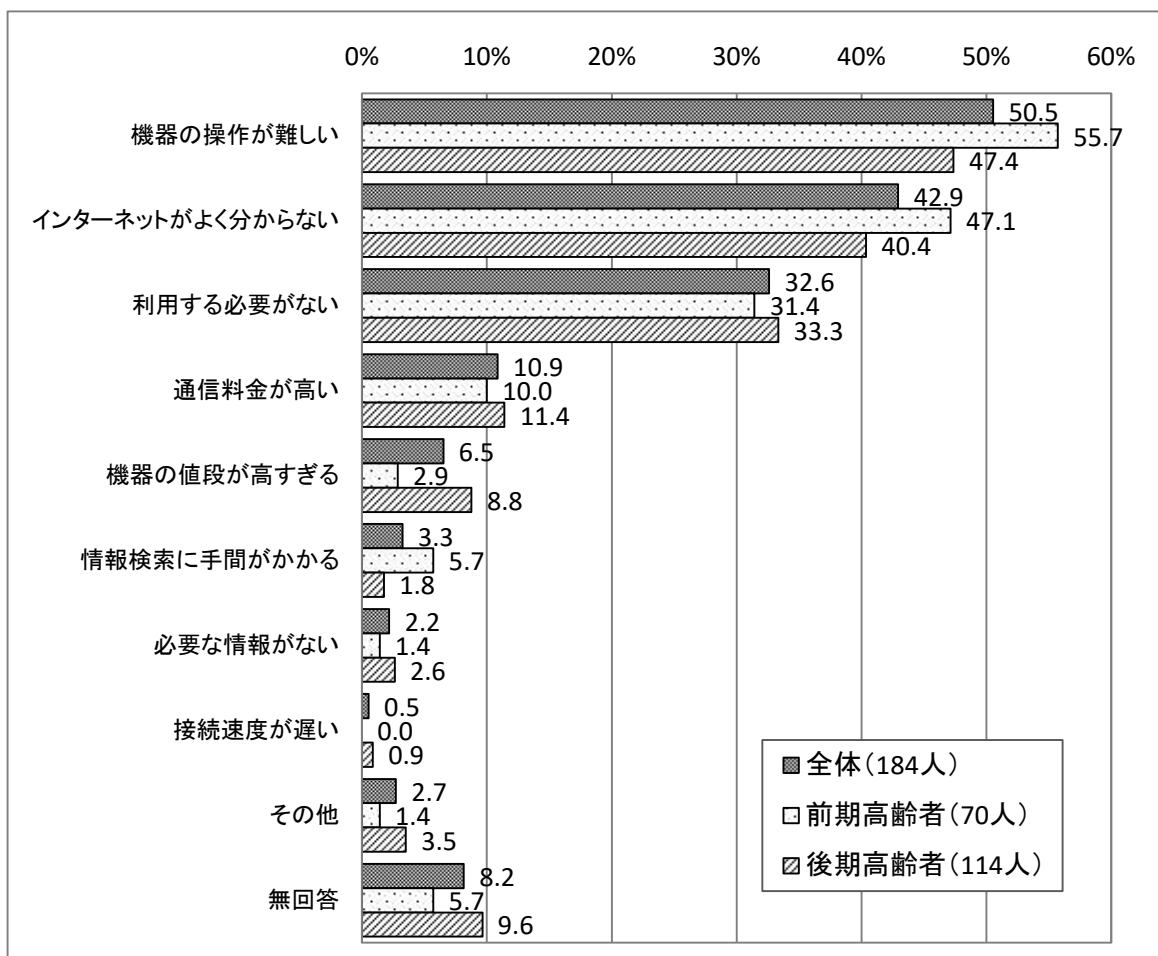
(4) インターネットを利用していない理由

問 81 で「2 インターネットを利用していない」とお答えの方におたずねします。

問 81-2 インターネットを利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

インターネットを利用していない方の理由をみると、「機器の操作が難しい」が 50.5%と半数を占めています。次いで、「インターネットがよく分からない」(42.9%)、「利用する必要がある」(32.6%)と続いています。

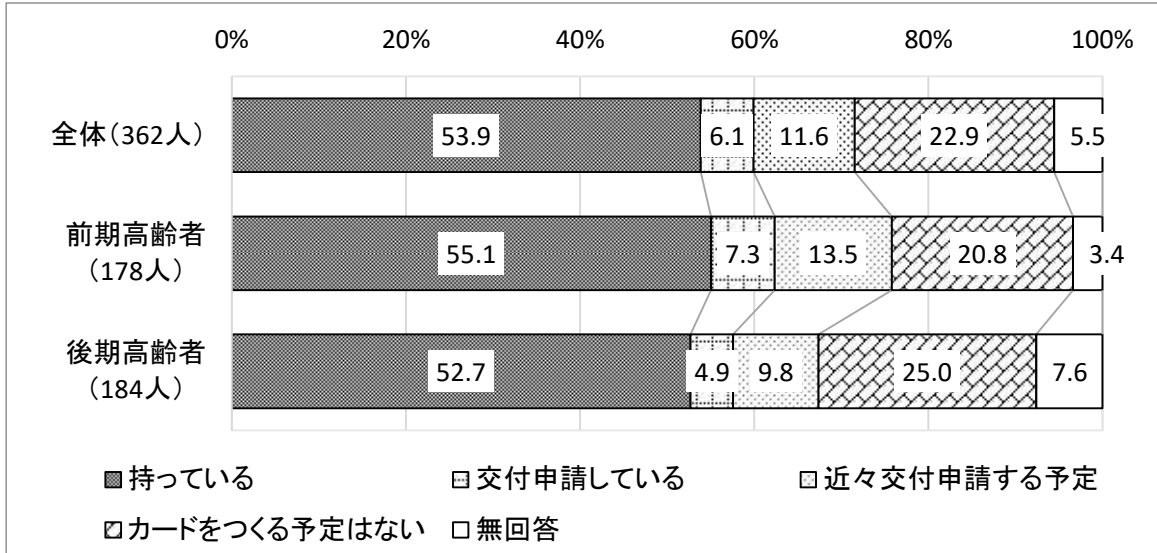
前期高齢者では、「機器の操作が難しい」が 55.7%と、後期高齢者よりやや多くなっています。



(5) マイナンバーカードの所持状況

問 82 あなたは、マイナンバーカードを持っていますか。(○は1つ)

マイナンバーカードについては、「持っている」が 53.9%と5割以上になっています。「交付申請している」が 6.1%、「近々交付申請する予定」が 11.6%となっています。
一方、「カードをつくる予定はない」は 22.9%となっています。

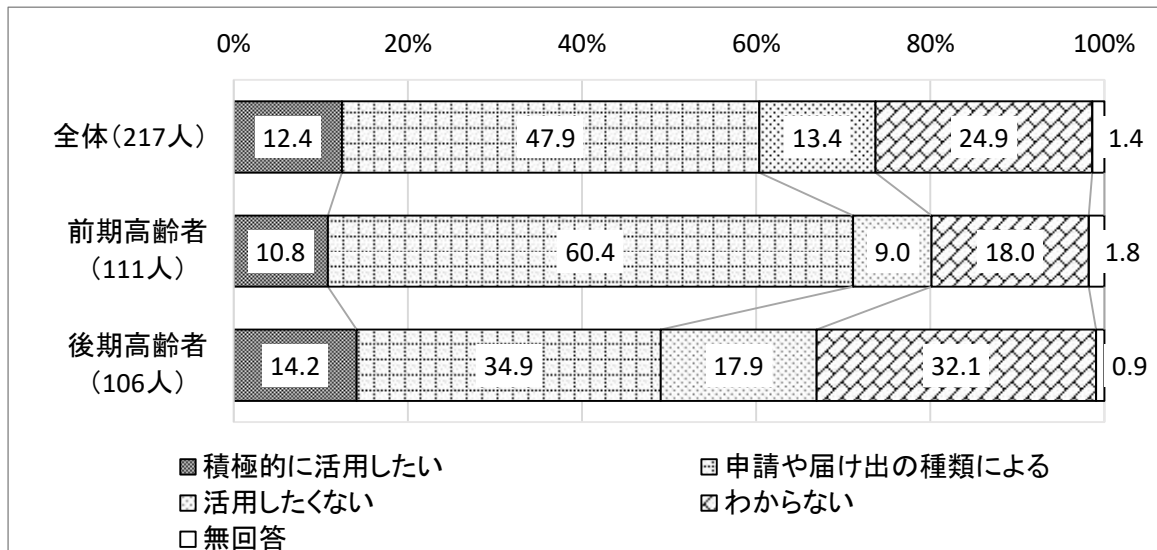


(6) マイナンバーカードでのオンライン申請や届け出

問 82 で「1 持っている」あるいは「2 交付申請している」とお答えの方におたずねします。

問 82-1 マイナンバーカードによるオンライン申請や届け出を行うことができるようになったら、活用したいと思いますか。(○は1つ)

マイナンバーカードでのオンライン申請や届け出については、「積極的に活用したい」が 12.4%、「申請や届け出の種類による」が 47.9%となっています。
後期高齢者では、「わからない」との回答が 32.1%と多くなっています。

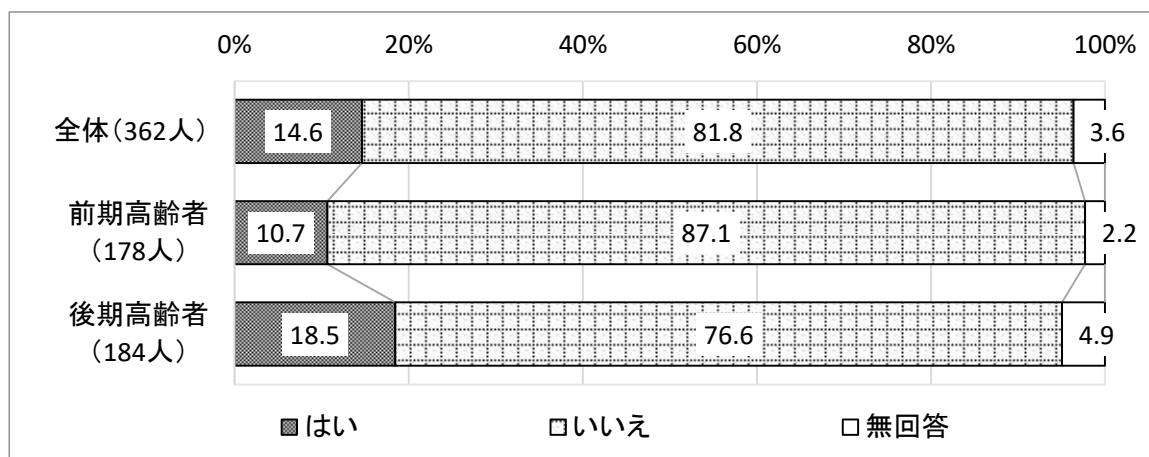


8. エンディングノートについて

問 83 あなたは、エンディングノート(自身の死後の希望を書き留めておくもの)を書いたことがありますか。(〇は1つ)

エンディングノートを書いた経験については、「はい」が 14.6%、「いいえ」が 81.8%となっています。

後期高齢者では、エンディングノートを書いたことのある方は 18.5%となっています。



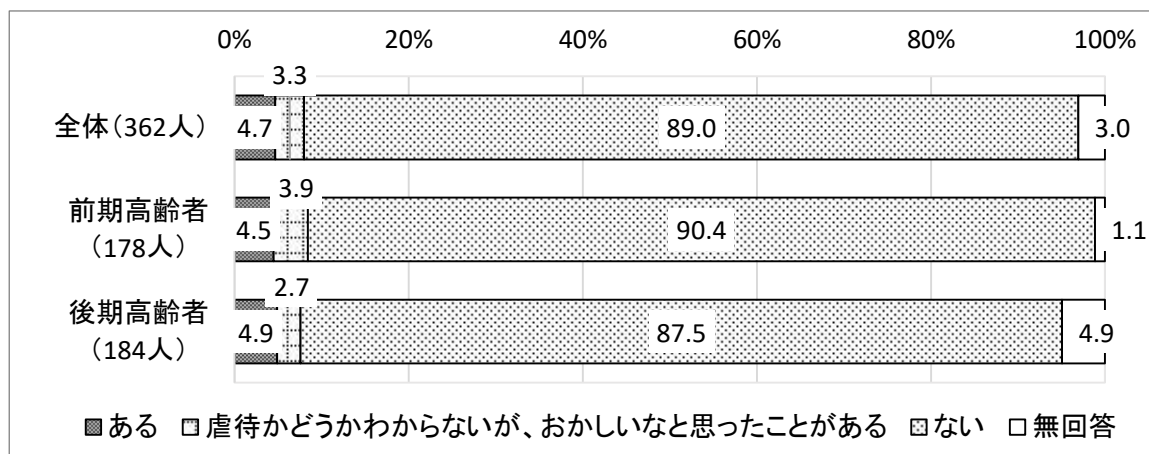
9. 虐待について

(1) 虐待の察知

問 84 最近、テレビや新聞等で、要介護者や高齢者の虐待について取り上げられています。あなたの身近なところで、要介護者や高齢者の虐待を見たり聞いたりしたことがありますか。(〇は1つ)

要介護者や高齢者の虐待を見たり聞いたりしたことについては、「ある」が 4.7%、「虐待かどうか分からないが、おかしいなと思ったことがある」が 3.3%となっています。

回答人数をみると、「ある」が 17 人、「虐待かどうか分からないが、おかしいなと思ったことがある」が 12 人となっています。

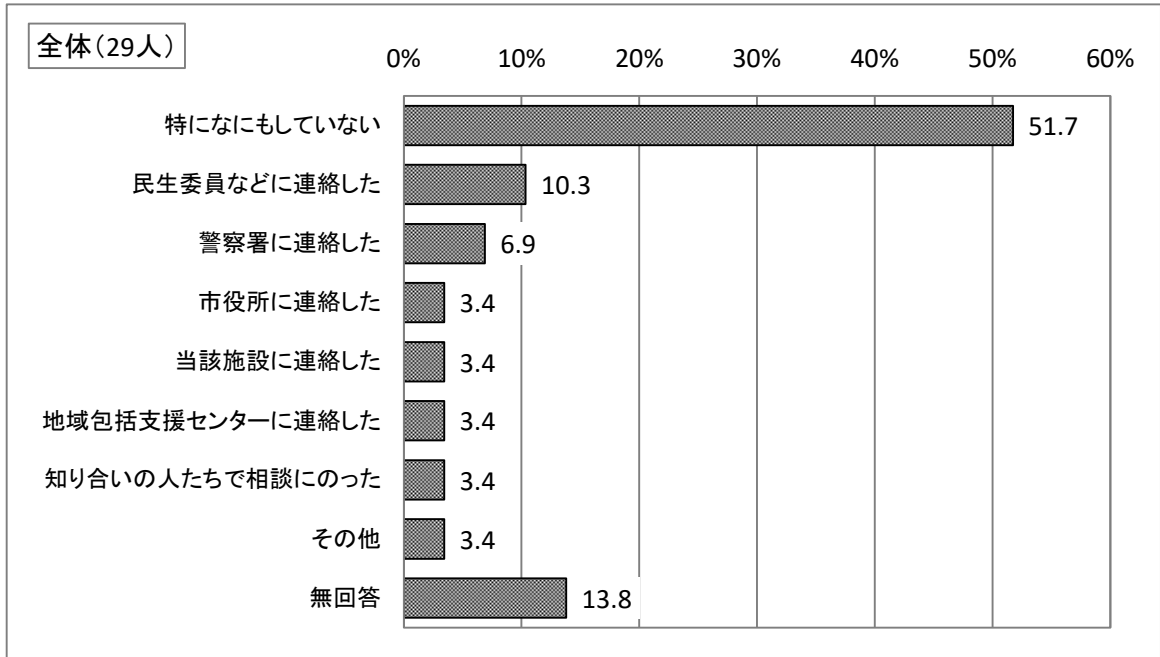


(2) 虐待を察知した時の対応

問 84 で「1 ある」あるいは「2 虐待かどうか分からないが、おかしいなと思ったことがある」とお答えの方におたずねします。

問 84-1 その時どのように対応しましたか。(○は1つ)

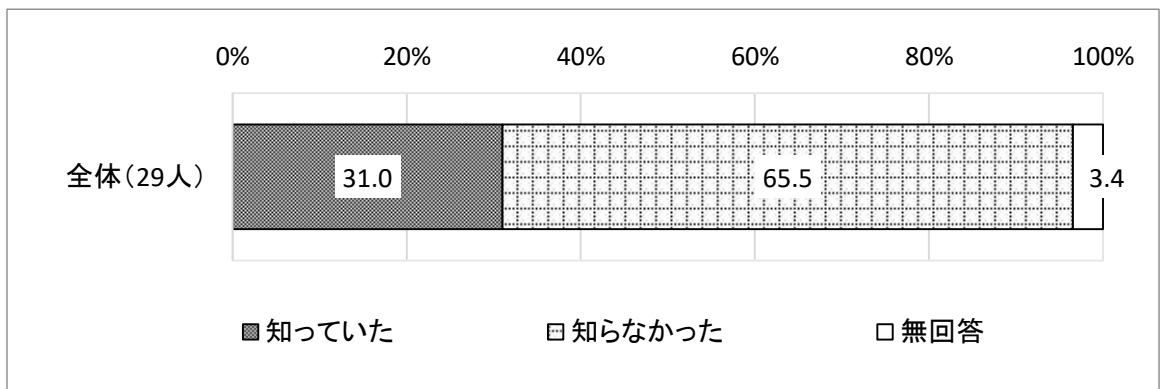
虐待を察知した時の対応については、「特になにもしていない」が 51.7% (15 人) で最も多くなっています。次いで、「民生委員などに連絡した」が 10.3% (3 人)、「警察署に連絡した」が 6.9% (2 人) となっています。



(3) 高齢者虐待防止法における通報義務

問 84-2 高齢者虐待防止法では、「生命身体に重大な危険のおそれ」がない場合でも、市への通報は努力義務とされていますが知っていましたか。

高齢者虐待防止法による通報義務については、「知っていた」が 31.0% と約3割になっています。



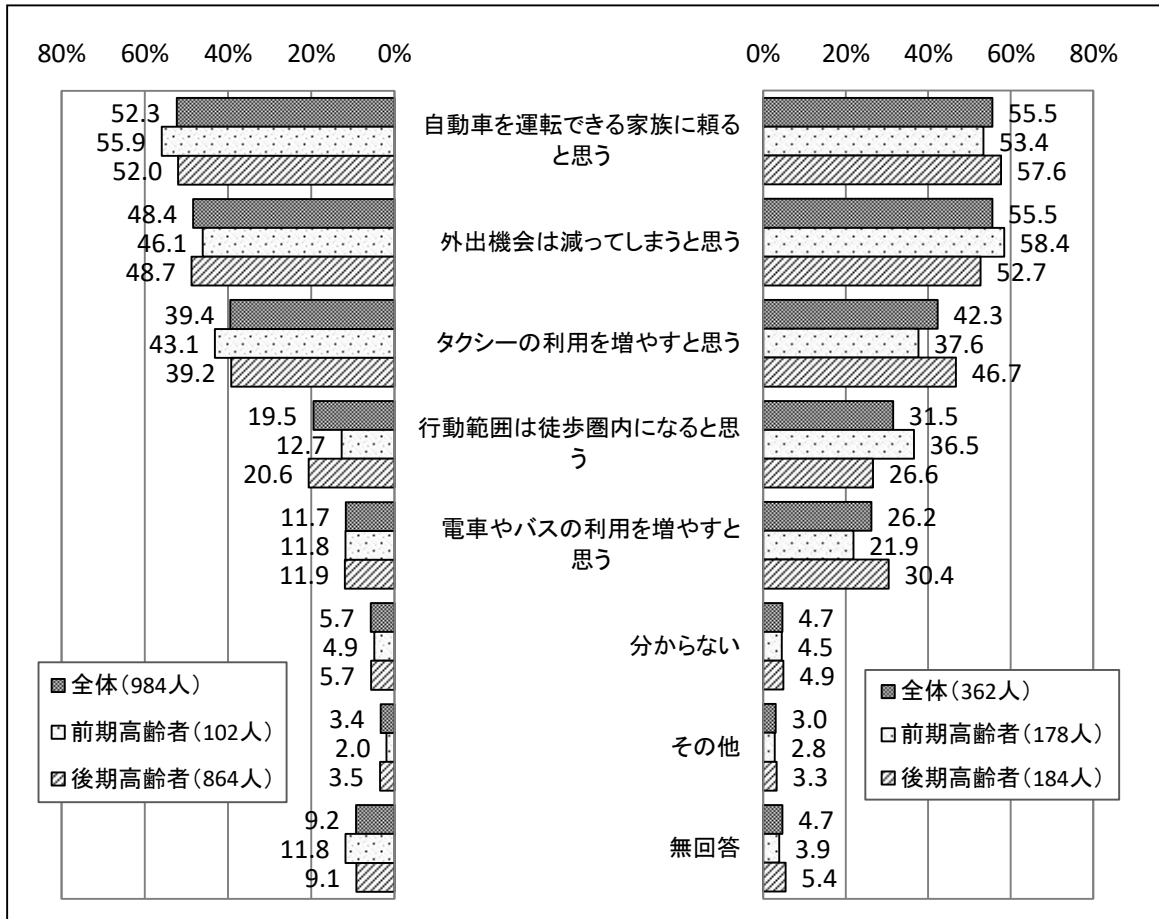
第4章 共通設問による比較

1. 自動車等の運転ができなくなった場合

元気高齢者で「行動範囲は徒歩圏内になると思う」と「電車やバスの利用を増やすと思う」という自動車以外での行動を選択している人が多くなっています。

【居宅要介護・要支援認定者】

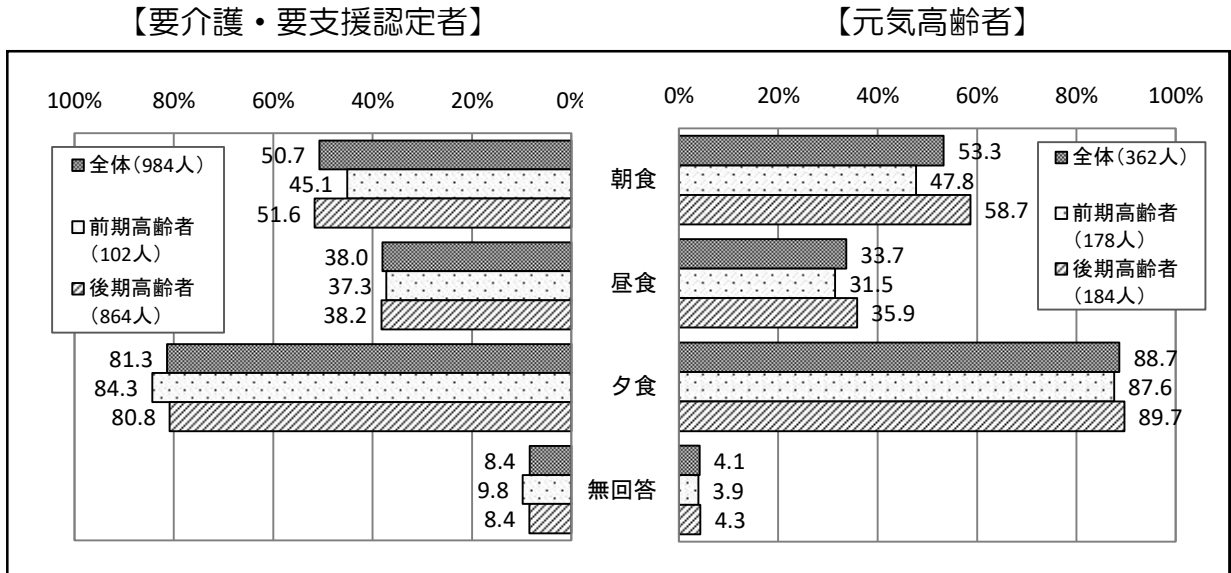
【元気高齢者】



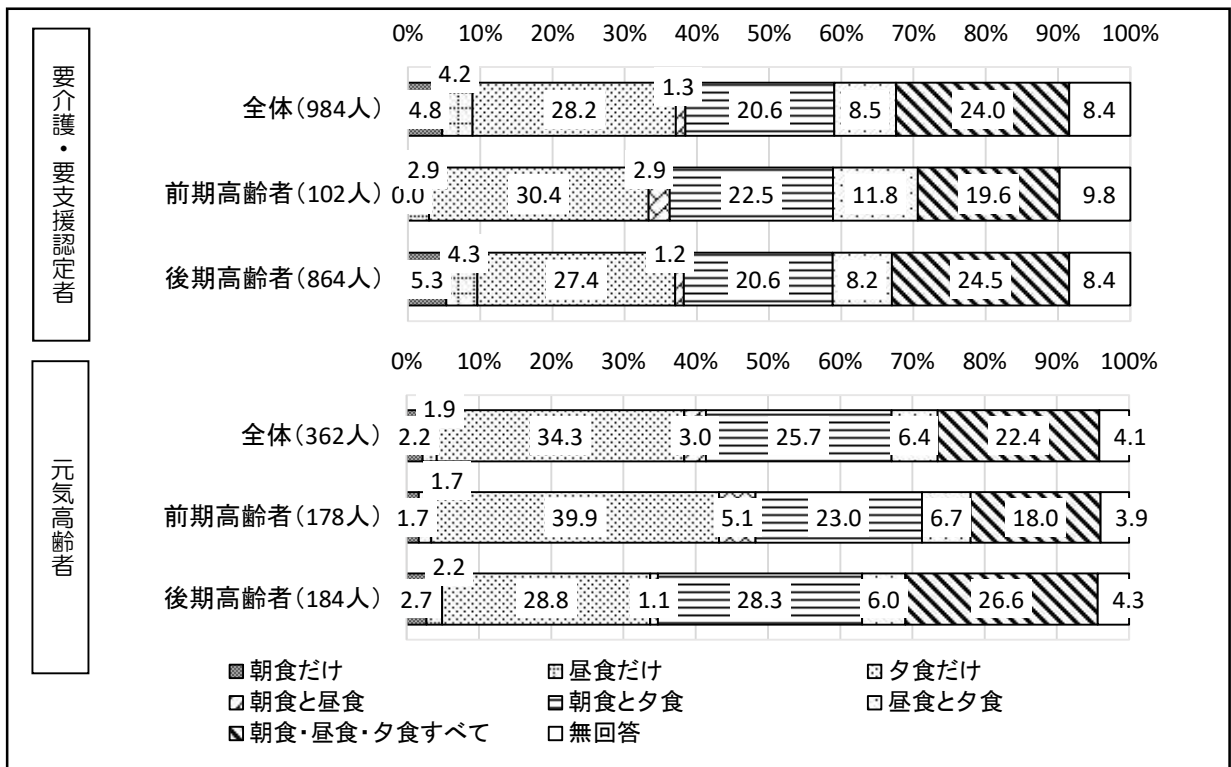
2. 食生活について

(1) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事

主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事については元気高齢者の後期高齢者で「夕食」の割合がやや多くなっています。

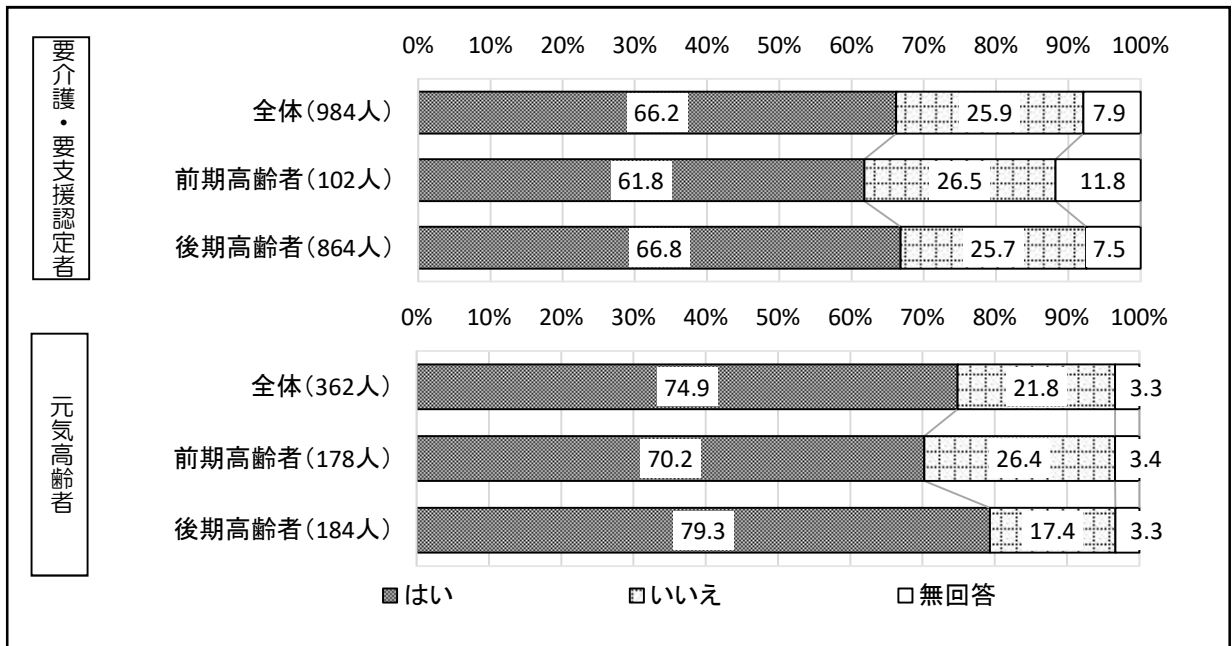


元気高齢者の前期高齢者では、主食・主菜・副菜をそろえて食べるのは「夕食」だけの回答が39.9%と約4割になっています。



(2) 減塩意識

普段の食生活で塩分を控えること意識については、元気高齢者で割合が高くなっています。

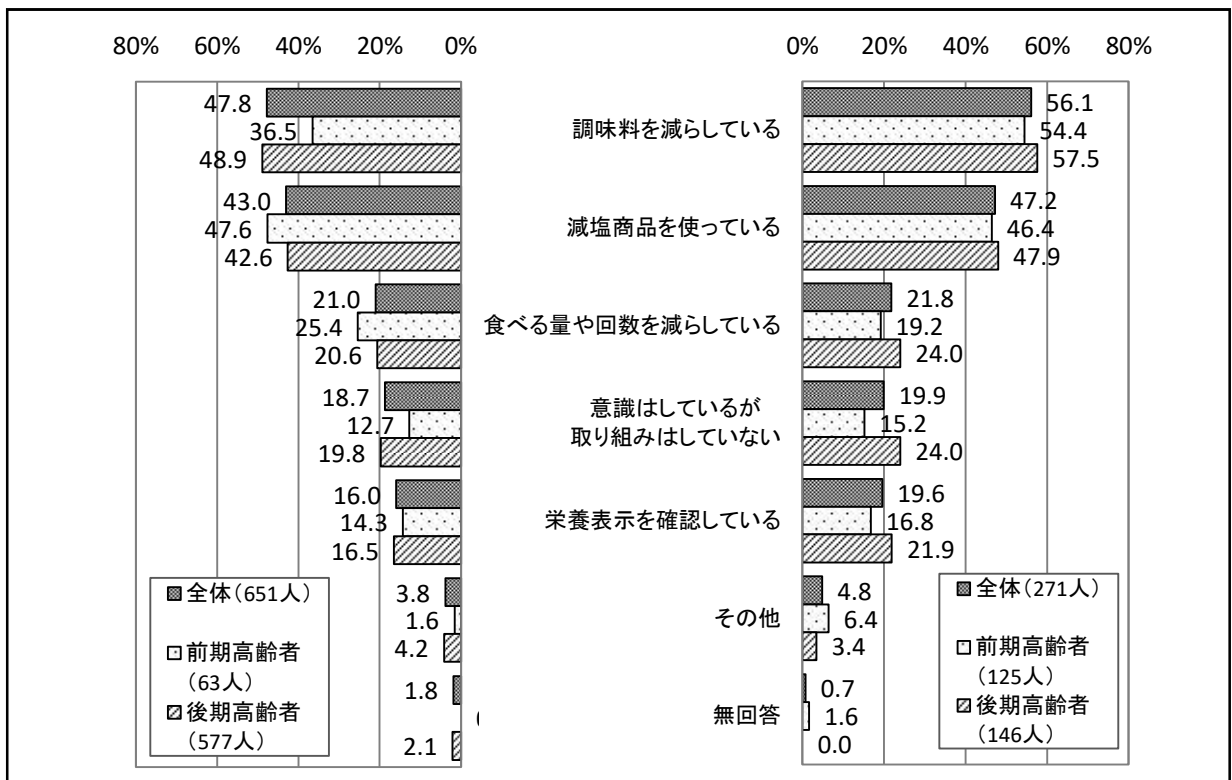


(3) 普段の食生活での意識

普段の食生活での意識については、要介護・要支援認定者、元気高齢者共に同じような傾向を示しています。

【要介護・要支援認定者】

【元気高齢者】

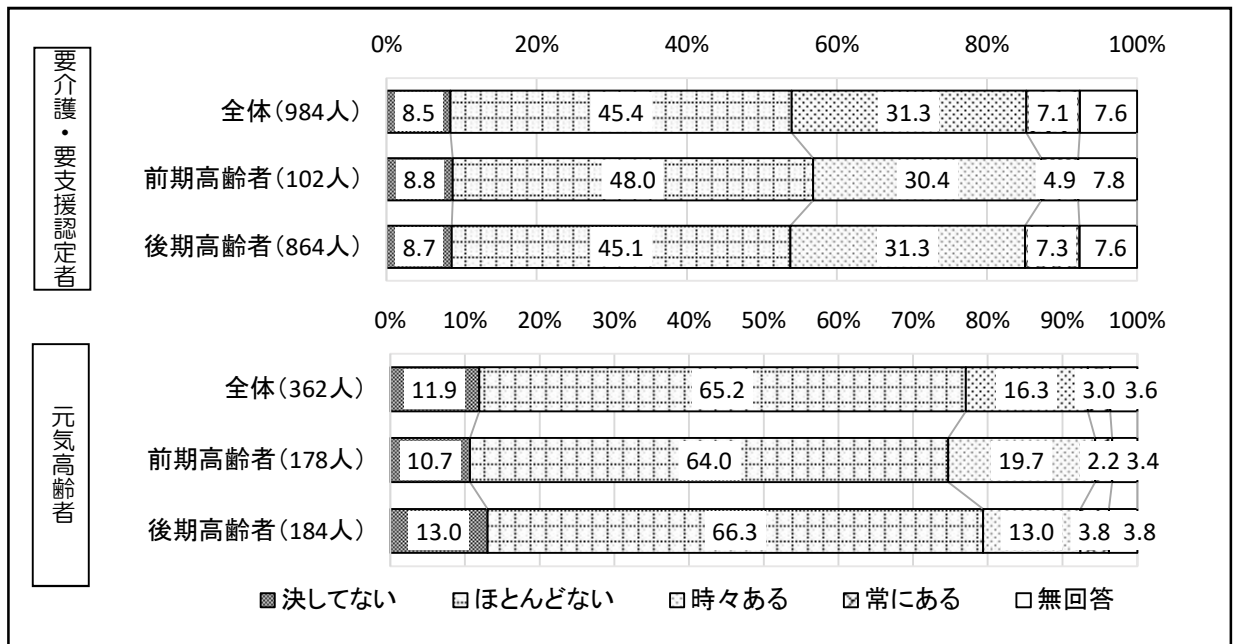


5. 孤立感や不安について

(1) 孤立感について

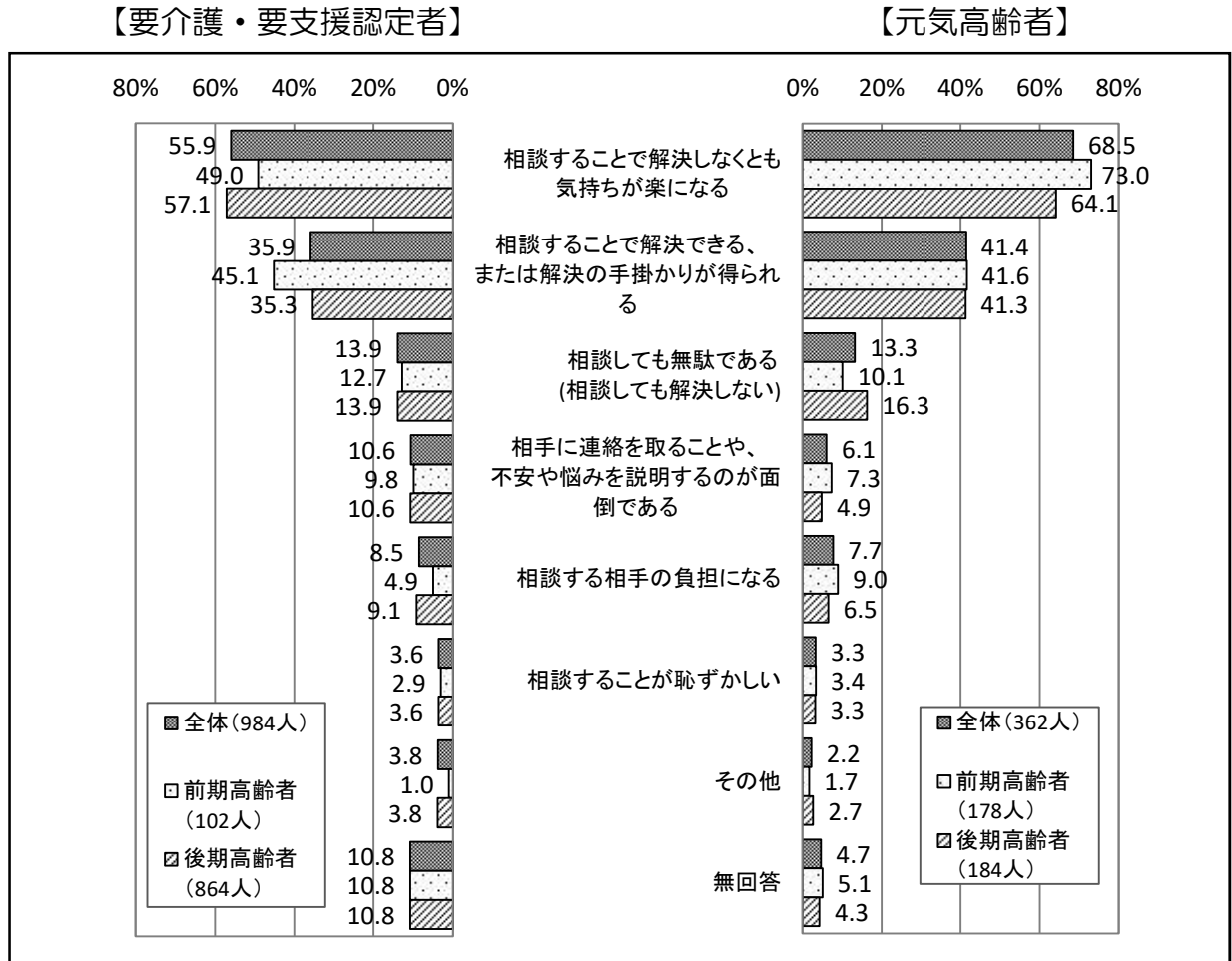
「時々ある」が元気高齢者では 16.3%であるのに対して、要介護・要支援認定者では 31.3%と3割以上になっています。

「常にある」についても、要介護・要支援認定者では元気高齢者の2倍程度になっています。



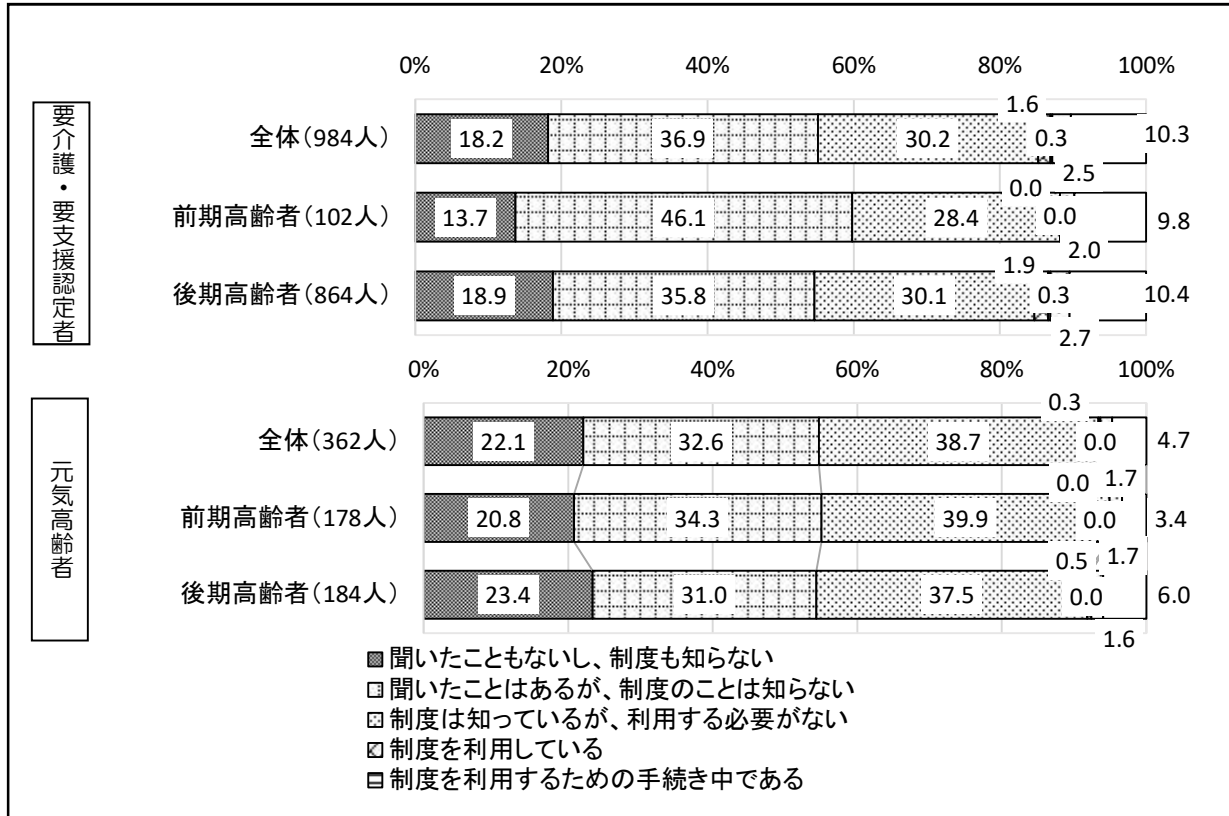
(2) 不安や悩みを相談することについて

元気高齢者では、相談に対する肯定的な意見が多くなっています。



6. 成年後見制度について

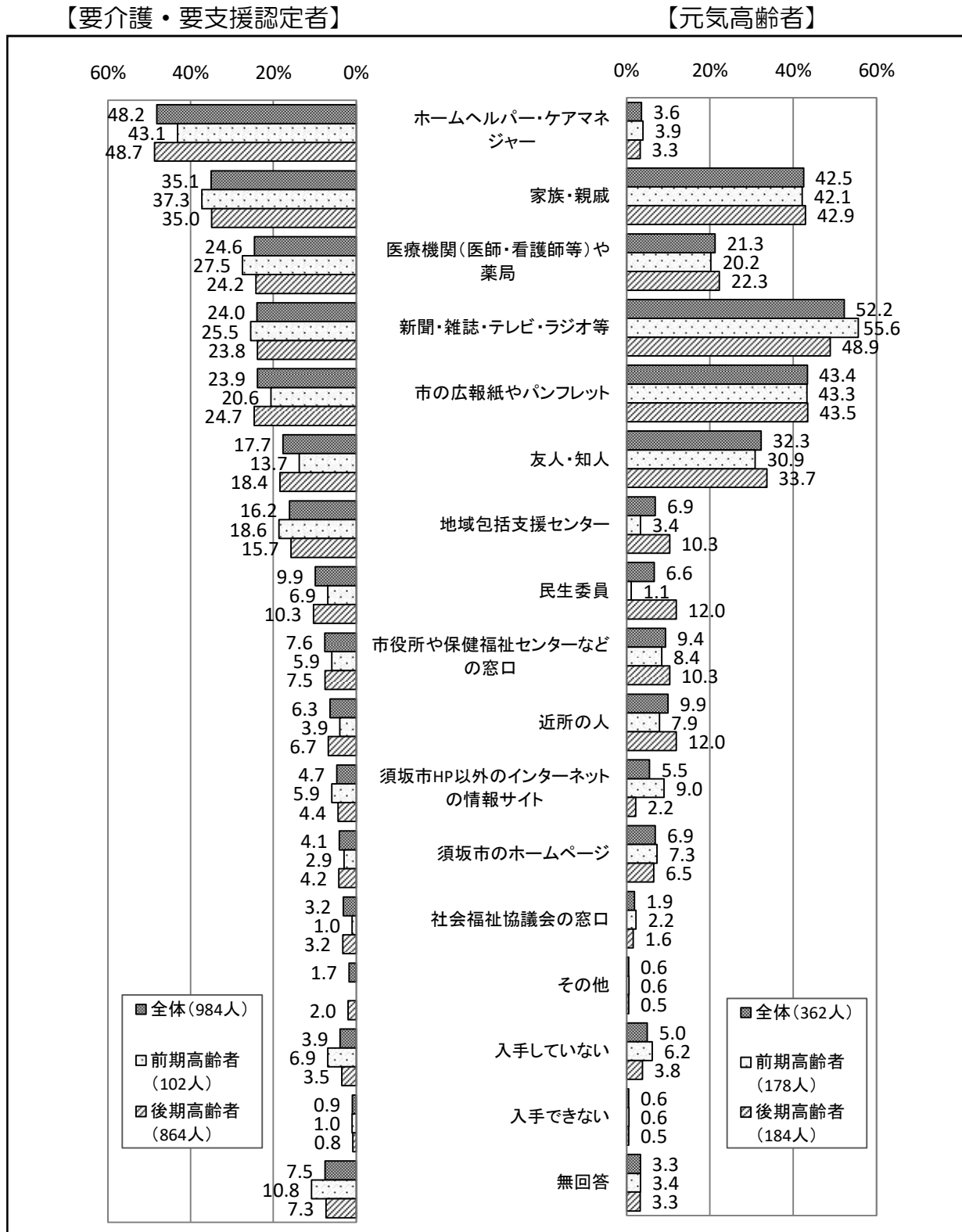
成年後見制度の認知度では、元気高齢者で「制度は知っているが、利用する必要がない」が多くなっています。



7. 情報入手やインターネットの利用について

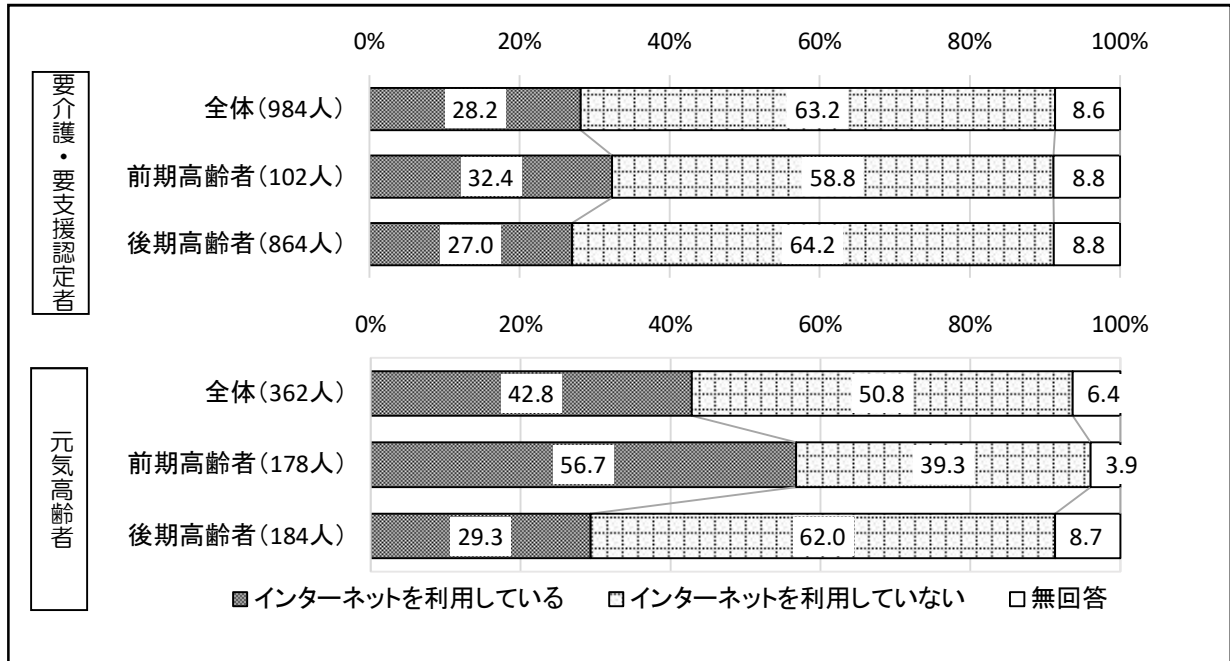
(1) 介護や健康に関する情報

要介護・要支援認定者と元気高齢者では、情報の入手経路が異なり、要介護・要支援認定者が身近な者からの情報入手であるのに対して、元気高齢者はマスメディアや広報媒体が多くなっています。



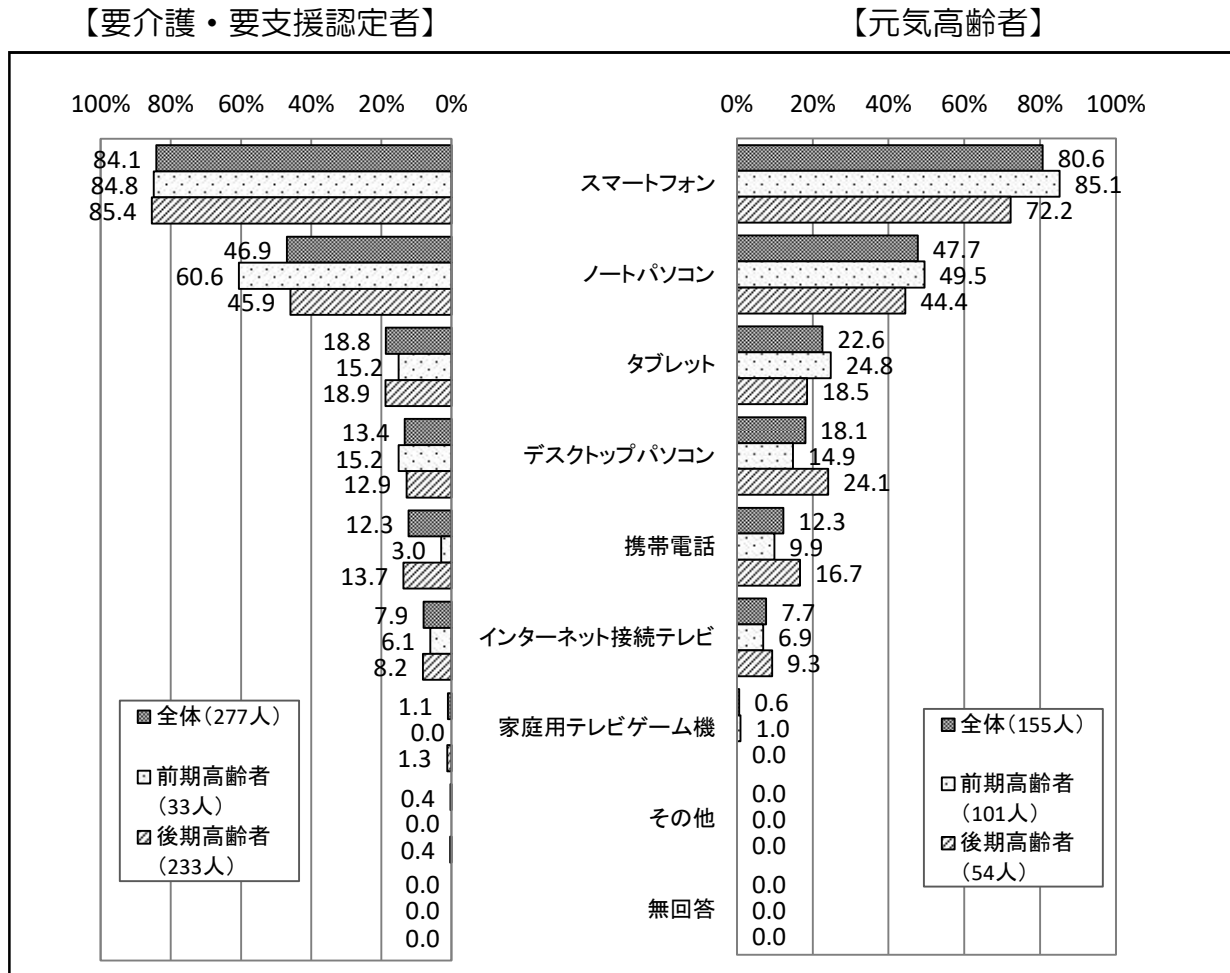
(2) インターネットの利用状況

インターネットの利用については元気高齢者での利用が多く、特に前期高齢者では56.7%と5割以上になっています。



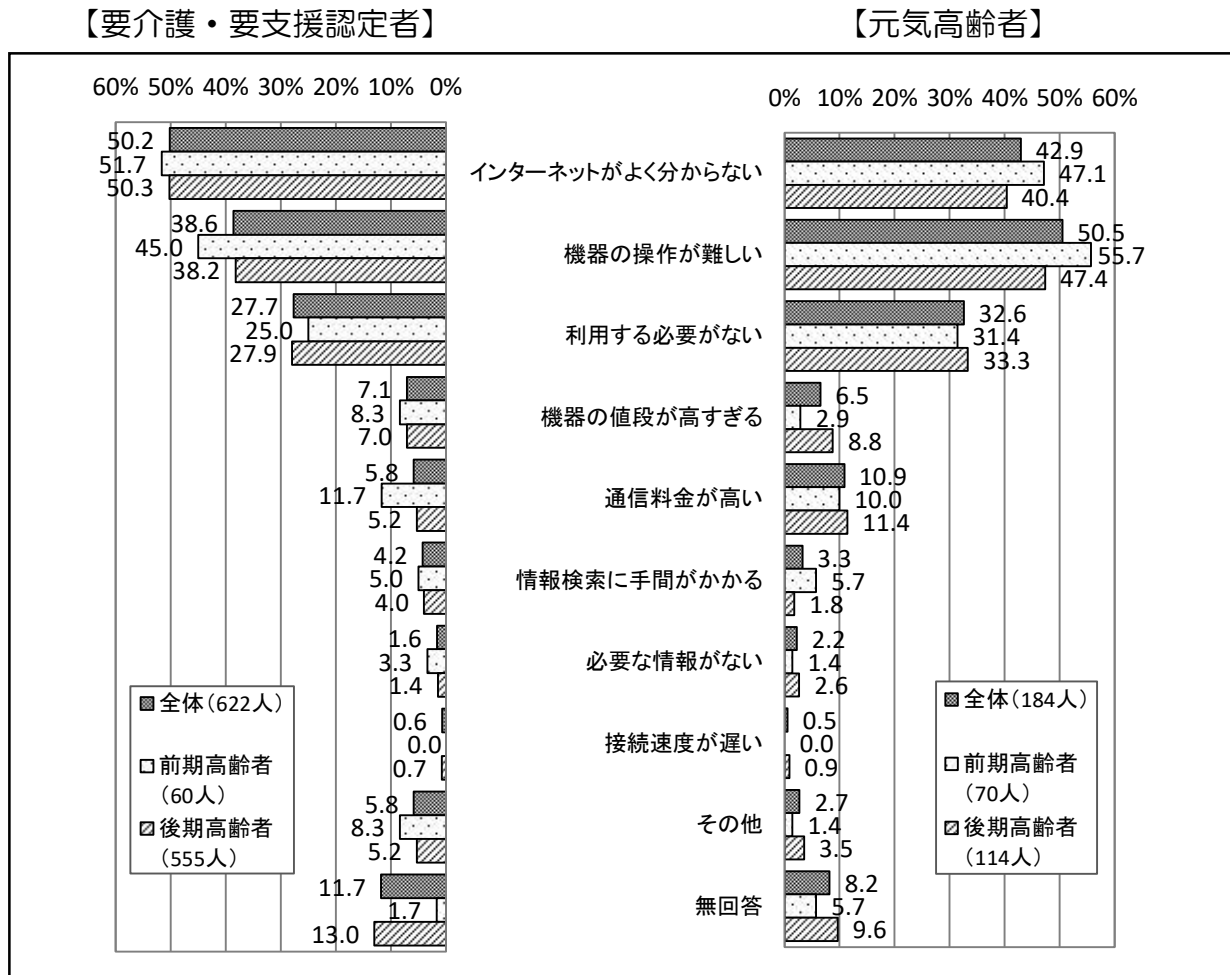
(3) インターネットを利用している機器

インターネットを利用している方の利用している機器については、要介護・要支援認定者と元気高齢者共に同じような傾向を示しています。



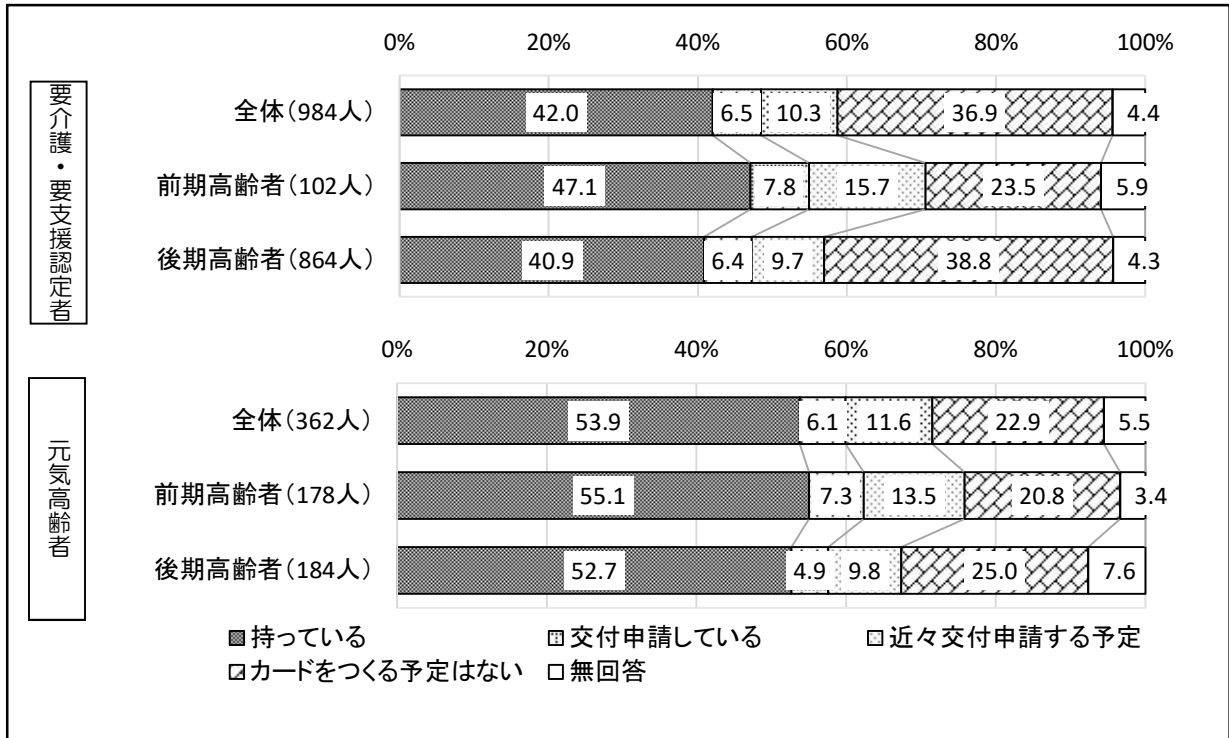
(4) インターネットを利用していない理由

インターネットを利用していない方の理由については、要介護・要支援認定者では「インターネットがよく分からない」が最も多く、元気高齢者では「機器の操作が難しい」が最も多くなっています。



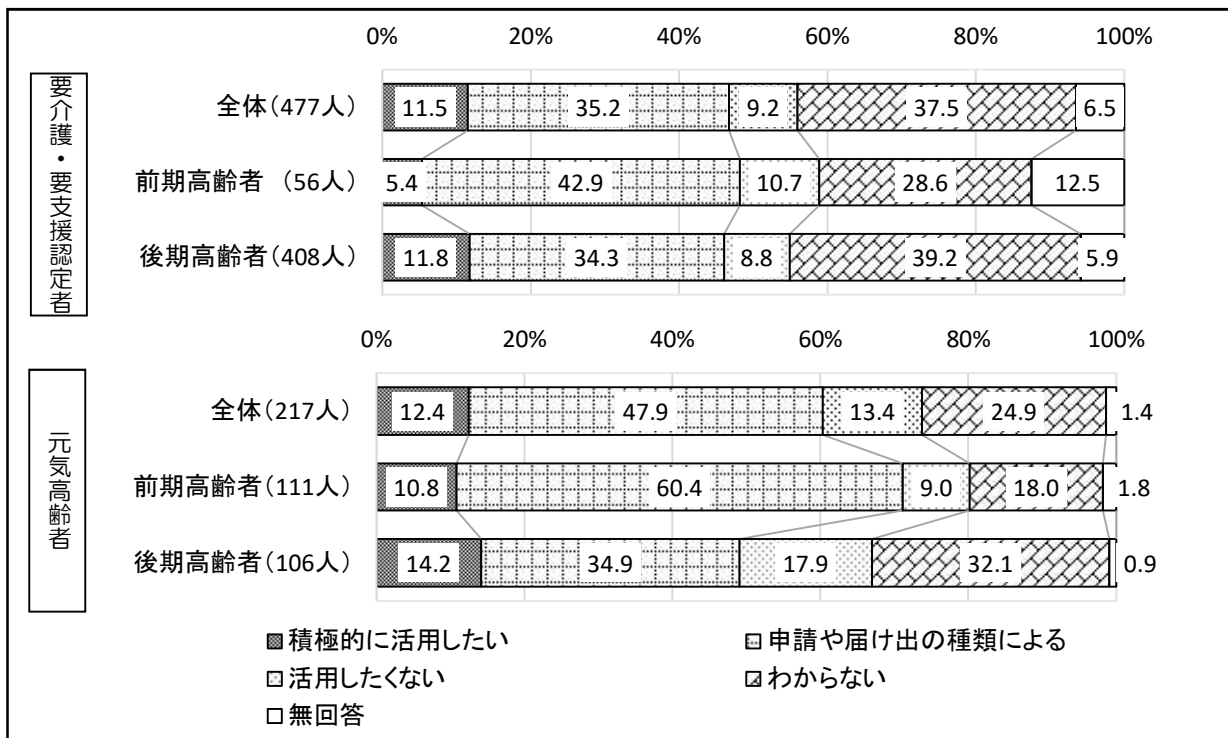
(5) マイナンバーカードの所持状況

マイナンバーカードについては、元気高齢者で「持っている」方が多くなっています。



(6) マイナンバーカードでのオンライン申請や届け出

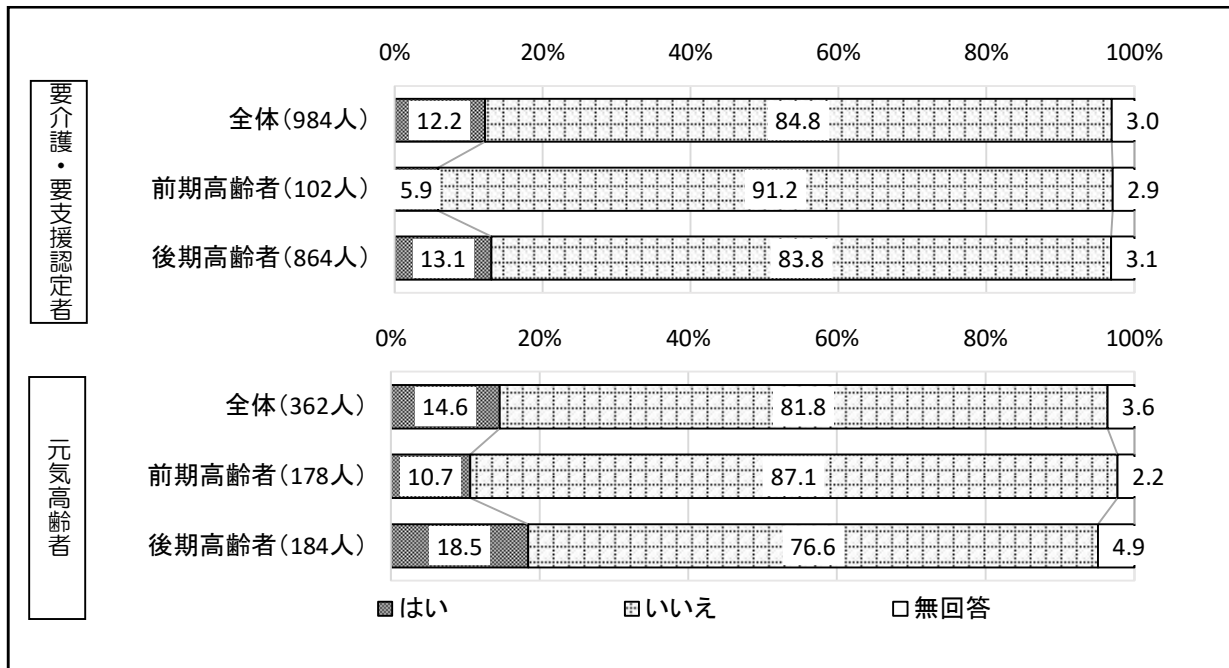
マイナンバーカードでのオンライン申請や届け出については、「積極的に活用したい」や「申請や届け出の種類による」という活用の意思がある人が約6割と元気高齢者で多くなっています。要介護・要支援認定者では半数以下となっています。



8. エンディングノートについて

エンディングノートを書いた経験については、要介護・要支援認定者の前期高齢者がやや少なくなっています。

元気高齢者の後期高齢者では18.5%と2割近くになっています。



9. 調査結果の要約

(1) 自動車等の運転ができなくなった場合

元気高齢者は他の移動手段を用いて自力で行動

自分で自動車等の運転ができなくなった場合は、居宅要介護・要支援認定者では家族に頼ったり、外出自体を減らすなどの回答が多くなっていますが、元気高齢者では「行動範囲は徒歩圏内になると思う」と「電車やバスの利用を増やすと思う」というように、自動車以外の移動手段を用いて行動するだろうとの回答が多くなっています。

(2) 食生活について

バランスの取れた食事と減塩意識に差がみられる

主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事については、元気高齢者の前期高齢者と後期高齢者で差が出ています。元気高齢者の後期高齢者では、2食以上でバランスの取れた食事をしている方が62.0%と6割以上になっていますが、前期高齢者では、「夕食だけ」が39.9%と約4割と偏りがみられます。居宅要介護・要支援認定者では、2食以上でバランスの取れた食事をしている方50%台にとどまっているため、バランスのとれた食事は高齢期の健康に深く関わっている可能性があります。

また、減塩意識については、元気高齢者が居宅要介護・要支援認定者より高くなっており、特に元気高齢者の後期高齢者では79.3%と約8割を占めており、減塩意識の高さが伺えます。

(3) 孤立感や不安について

孤立していると感じる割合は、居宅要介護・要支援認定者で元気高齢者の約2倍

孤立していると感じる割合は、居宅要介護・要支援認定者と元気高齢者ともに、前期高齢者・後期高齢者ではほとんど差がなく、居宅要介護・要支援認定者と元気高齢者で大きな差がみられました。

孤立していると感じることが「時々ある」については、居宅要介護・要支援認定者は31.3%であるのに対して元気高齢者では16.3%、「常にある」については、居宅要介護・要支援認定者は7.1%であるのに対して元気高齢者では3.0%となっています。

「時々ある」と「常にある」を合わせた『孤立を感じている』方は、元気高齢者が19.3%であるのに対して、居宅要介護・要支援認定者では38.4%と2倍近くになっています。

不安や悩みを相談することについて、居宅要介護・要支援認定者では肯定的な意見が少なく、孤立感や不安の解消のための相談が少なくなっている可能性が考えられます。

(4) 情報入手やインターネットの利用について

要介護・要支援認定者では情報入手経路が限定的

要介護・要支援認定者では、介護や健康に関する情報の入手経路は、「ホームヘルパー・ケアマネジャー」「家族・親戚」「医療機関(医師・看護師等)や薬局」が多いの対して、元気高齢者では、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等」「市の広報紙やパンフレット」「家族・親戚」「友人・知人」など、各種メディアや知人から情報を得ており、情報の内容も多様だと考えられます。

また、インターネットの利用状況においても、元気高齢者では4割以上が利用していますが、要介護・要支援認定者では28.2%と3割未満にとどまっています。

インターネットを利用していない理由として、元気高齢者では「機器の操作が難しい」との回答が最も多くなっていますが、要介護・要支援認定者では「インターネットがよく分からない」が半数近くを占めて最も多くなっており、元気高齢者は機器を操作するところまでは取り組んでいるが、要介護・要支援認定者では「分からない」ということで機器を操作するところまで進んでいないのではないかと思われ、インターネットの利便性を享受するためにも、ネットワーク機器への拒絶感を減少させる取り組みが必要だと考えられます。

高齢者等実態調査
須坂市独自調査結果報告書

発行：須坂市

〒382-8511

長野県須坂市大字須坂 1528 番地の1

須坂市 高齢者福祉課

電話：026 - 248 - 9020